仙台市文化芸術推進基本計画

（2024年から2028年）

令和６年３月

仙台市・仙台市教育委員会

目次

第１章　計画について

１　策定の目的

２　計画の位置づけ

３　計画期間

４　本計画における文化芸術の範囲

第２章　仙台市の文化芸術の現在地

１　社会情勢の変化と国の文化政策の動向

２　ほん市の文化芸術振興に係る取組

３　文化芸術面の強み・個性、課題と今後の方向性

第３章　計画の全体像

１　基本理念

２　計画の全体像

３　目指す姿と基本施策

４　重点プロジェクト

第４章　施策の展開

１　施策と主な取組

目指す姿１

目指す姿２

目指す姿３

目指す姿４

目指す姿５

目指す姿１から５を横断する施策

第５章　計画の推進

１　推進体制

２　進捗管理

３　推進にあたっての指標

参考資料

１　仙台市文化芸術推進基本計画検討懇話会

２　各種調査の結果

３　市民参画の取組

第１章

計画について

１　策定の目的

２　計画の位置づけ

３　計画期間

４　本計画における文化芸術の範囲

１　策定の目的

　ほん市では、市民の手によって生まれ、育まれた多様な文化芸術活動がまちを舞台に展開され、まちに活気と賑わいをもたらしてきました。

　市の取組としては、伊達家もその振興に力を注いだ能楽を中心とした伝統芸能の普及を図る事業のほか、音楽の盛んなまち、演劇や舞台芸術活動の盛んなまちを指す「がくと仙台」「げきと仙台」を都市個性の一つとして標榜し、音楽や舞台芸術の多彩な振興事業を実施してきました。また、特徴的な建築デザインを持つせんだいメディアテークでは、現代アートや映像メディアといった同時代の文化芸術に関する事業においてフラッグシップとなる等、文化芸術に関する様々な取組を推進してきたところです。

　一方、国の動向に目を向けると、平成29年（2017年）に成立した「文化芸術基本法」では、文化芸術そのものの振興にとどまらず、観光、福祉、教育等関連分野の施策とも連携を図っていくことや、地方自治体においても、国が策定した計画を参酌して、文化芸術の推進に関する計画を定めるよう努めることとされました。

　ほん市においても、こうした国の動向に加え、昨今の社会情勢の変化等を踏まえるとともに、現在検討を進めている音楽ホールと中心部震災メモリアル拠点の複合施設の整備を見据えた文化芸術振興施策の展開が求められています。

　こうしたことを踏まえ、ほん市の文化芸術に関する施策を体系的に整理するとともに、文化芸術が持つ多様な力を今後のまちづくりに生かすため、ほん市の文化芸術振興の新たな方向性を示す「仙台市文化芸術推進基本計画」を策定します。

２　計画の位置づけ

　この計画は、文化芸術基本法に基づく「地方文化芸術推進基本計画」及び障害者による文化芸術活動の推進に関する法律に基づく「地方公共団体における障害者による文化芸術活動の推進に関する計画」に位置づけます。また、仙台市基本計画で掲げるまちづくりの理念「挑戦を続ける、新たな杜のみやこへ　“ザ　グリーネスト シティー”せんだい」を共有し、その中で示される文化芸術分野の施策と協働して推進するものとし、文化芸術が様々な分野に貢献し得るものであることから、他の関連する計画等とも連携を図ります。

３　計画期間

　令和６（2024）年度から令和10（2028）年度までの５年間とします。

４　本計画における文化芸術の範囲

　文化芸術基本法に示されている内容を基本とし、また東日本大震災の経験と教訓を未来のまちづくりに生かしていくという防災環境都市・仙台ならではの特徴を踏まえ、「災害文化」を加えたおよそ以下の分野を範囲とします。

芸術

文学、音楽、美術、写真、演劇、舞踊その他の芸術メディア芸術映画、漫画、アニメーション及びコンピュータその他の電子機器等を利用した芸術伝統芸能雅楽、能楽、文楽、歌舞伎、組踊その他の我が国古来の伝統的な芸能芸能講談、落語、浪曲、漫談、漫才、歌唱その他の芸能生活文化・国民娯楽・出版物等生活文化（茶道、華道、書道、食文化その他の生活に係る文化）、国民娯楽（囲碁、

将棋その他の国民的娯楽）、出版物及びレコード等

文化財有形及び無形の文化財並びにその保存技術地域文化地域固有の伝統芸能及び民俗芸能災害文化災害を乗り越えるための知恵やすべを備えた社会文化

第２章

仙台市の文化芸術の現在地

１　社会情勢の変化と国の文化政策の動向

２　ほん市の文化芸術振興に係る取組

３　文化芸術面の強み・個性、課題と今後の方向性

１　社会情勢の変化と国の文化政策の動向

かっこ１　社会情勢の変化

■人口減少社会の到来と少子高齢化

　ほん市の人口は、令和10（2028）年の110.1万人をピークに減少に転じ、０～14歳人口は、令和２（2020）年の12.9万人から2070年には9.3万人まで減少することが見込まれています。

　全国的な傾向として、少子高齢化の進行による人口減少は、地域における個性豊かな伝統文化をはじめ、様々な文化芸術活動の担い手の不足を招く等、地域の文化芸術を支える基盤に影響を及ぼしています。

仙台市の人口推計（単位：万にん）　※2020年は国勢調査確定値で、年齢別割合は年齢不詳を除いて算出

0～14歳の人口

2020年　12.9、2025年　12.6、2030年　11.9、2035年　11.6、2040年　11.4、2045年　11.2、2050年　10.8、2055年　10.3、2060年　9.8、2065年　9.5、2070年　9.3

15～64歳の人口

2020年　67.3、2025年　69.1、2030年　68.2、2035年　65.9、2040年　62.0、2045年　59.1、2050年　56.9、2055年　55.3、2060年　54.0、2065年　52.2、2070年　50.4

65歳以上の人口

2020年　25.7、2025年　28.3、2030年　29.8、2035年　31.6、2040年　34.0、2045年　35.3、2050年　35.6、2055年　35.3、2060年　34.5、2065年　33.7、2070年　32.7

■SDGズ（持続可能な開発目標）

　平成27（2015）年、国連で開催された「国連持続可能な開発サミット」において、2030年に向けた国際社会全体の行動計画である「持続可能な開発のための2030アジェンダ（通称：2030アジェンダ）」が採択され、17の目標からなる「持続可能な開発目標（サステイナブル　デベロップメント　ゴールズ）：SDGズ）」が掲げられました。ほん市においても令和２（2020）年に「仙台市SDGズ（持続可能な開発目標）推進方針」を策定し、SDGズの推進を多様な主体と連携してまちづくりを進めるにあたっての共通理念としています。本計画は、特に、ゴール３　すべての人に健康と福祉を、ゴール４　質の高い教育をみんなに、ゴール５　ジェンダー平等を実現しよう、ゴール８　働きがいも経済成長も、ゴール10　人や国の不平等をなくそう、ゴール11　住み続けられるまちづくりを、ゴール17　パートナーシップで目標を達成しよう　の達成を目標に推進するほか、文化芸術の力が社会の様々な場面で発揮されることにより全てのゴールの達成の助力となることを目指します。

■多様性（ダイバーシティー）と包摂　（インクルージョン）えの関心の高まり

　東京ニイゼロニイゼロオリンピック・パラリンピック競技大会においては、基本コンセプトの一つとして「多様性と調和」が掲げられ、「人種、肌の色、性別、性的指向、言語、宗教、政治、障害の有無等、あらゆる面での違いを肯定し、自然に受け入れ、互いに認め合うこと」が重要とされました。グローバル化や少子高齢化の進行等を背景に持続可能な社会の在り方が問われる今、多様な人々が共存し、互いに尊重し合う社会の実現が求められています。文化芸術の分野でも、近年、文化芸術が持つ包摂性に着目し、多様な一人ひとりを包摂する社会包摂（注１）につながる文化芸術活動えの支援や法整備が進められており、ほん市においても、様々な活動が展開されています。

※注１

社会包摂…違いのある人たちを、違いを尊重したまま受け入れる社会を目指そうという考え方

参考文献：『はじめての“社会包摂×文化芸術”ハンドブック　一人ひとりに向きあい共に生きる社会をつくる』（編集：文化庁×九州大学　共同研究チーム、発行：九州大学大学院芸術工学研究院附属ソーシャルアートラボ、2019年）

■新型コロナウイルス感染症の影響

　令和２（2020）年に始まった新型コロナウイルス感染症の拡大は、文化芸術にも多大な影響をもたらしました。多くの公演が中止を余儀なくされたほか、感染症の影響による全国の公共ホールの閉館日数は、令和２年度で平均42.8日に及びました。事業の中止や貸館の停止は職業的に文化芸術に携わる人だけではなく、地域のサークル活動の減退、活動者数の減少やサークル自体の解散等、市民の文化芸術活動にも大きな影響を及ぼしました。

　新型コロナウイルス感染症をめぐっては、マイナスの影響が大きかった一方、文化施設におけるIT技術の活用推進につながった側面もありました。オンライン上での鑑賞機会の増加をはじめとして、文化芸術の楽しみ方にも広がりが生まれています。

コラムまる１　地域の文化芸術の担い手を生かす取組（ミュージック　フロム　パトナ）

　「全国劇場・音楽堂等職員アートマネジメント研修会報告書」（注２）によれば、コロナにより移動の制約がおき、地域の資源である人材や組織を生かすことの重要性が、コロナ禍において明確になったとの考え方が示されています。また、地域の資源である人材を生かす事例として、仙台フィルハーモニー管弦楽団の楽団員や市内県内の出身者を中心にキャスティングした、宮城野区文化センターと民間企画制作会社とが連携して行う室内楽のコンサートシリーズ（ミュージック　フロム　パトナ）の事例が紹介されました。この取組は、市民に音楽えの関心を持ってもらうきっかけとなるよう平成26（2014）年から始まったもので、令和５（2023）年で10年目を迎えました。コンサートの他、出演者が講師を務める事前学習会や公開リハーサル等も行い、室内楽の楽しみ方を学ぶ機会も設けています。今後も、地域の文化芸術を担う人材を大切にし、生かす取組を進めていく必要があります。

※注２

編集・発行：公益社団法人　全国公立文化施設協会（2022年）

かっこ２　国の文化政策の動向

　国では、近年、文化芸術関連の法律の新規制定や改正が行われました。

　平成29（2017）年には、文化芸術振興基本法が改正され「文化芸術基本法」が成立しました。この改正により、文化芸術そのものの振興にとどまらず、観光、まちづくり、国際交流、福祉、教育等の各関連分野の施策とも連携を図ることや、文化芸術により生み出される様々な価値を文化芸術の継承、発展及び創造に活用するとの方針が示されました。年齢、障害の有無又は経済的な状況に関わらず等しく文化芸術の鑑賞等ができる環境の整備を図ること等、基本理念も一部改められています。また、文化芸術活動を通じた障害者の個性と能力の発揮及び社会参加の促進を目的に、平成30（2018）年に「障害者による文化芸術活動の推進に関する法律」が成立しました。同法の基本理念には、障害の有無に関わらず、文化芸術を創造・享受できることや、障害者による芸術上価値が高い作品等の創造支援を強化すること、地域で障害者の文化芸術活動を促進することで障害者だけでなく住民全体が心豊かに暮らせる地域社会を実現すること等が掲げられています。以上の二つの法律において、地方自治体は国の計画を参酌して、各地方の実情に即した計画を策定するよう努めるものとされました。

　平成31（2019）年に一部改正された文化財保護法では、地域における文化財の計画的な保存・活用の促進や、地方文化財保護行政の推進力の強化を図ることとされました。また、令和２（2020）年には、文化の振興を観光の振興と地域の活性化につなげ、これによる経済効果が文化の振興に再投資される好循環を創出することを目的に、地域の文化施設の機能強化を図る、「文化観光拠点施設を中核とした地域における文化観光の推進に関する法律」（文化観光推進法）が成立しています。令和４（2022）年に一部改正された博物館法では、同法の目的について、社会教育法に加えて文化芸術基本法の精神に基づくことが定められ、博物館が行う事業の一つとしてデジタルアーカイブの作成と公開が位置づけられたほか、他の博物館との連携や地域の多様な主体との連携・協力により、文化観光等地域の活力向上へ寄与するよう努めることとされました。

２　ほん市の文化芸術振興に係る取組

　ほん市は、古来より水陸交通の要衝として、また政治・経済・文化の中心地として栄えてきました。古代から中世にかけてはむつ国府を中心とした人々の交流や物流等により賑わいを見せ、むつ国分寺・国分にじ等の大寺院も創建されました。慶長６（1601）年、伊達政宗公が仙台城と城下町の建設を開始し、これが仙台藩や現在の仙台の基礎となっていきます。時代を代表する文化人でもあった政宗公は、古代以来東北の地に根付いてきた文化を土台に、時代の息吹を汲み取りながら、新しい“伊達”な文化を仙台の地に花開かせました。慶長18（1613）年には慶長遣欧使節をメキシコ・ヨーロッパへと派遣し、彼らのそくせきは国際都市仙台の起点ともなっていきます。

　ほん市では、こうした歴史を礎として、幅広い分野において文化芸術に係る取組が活発に行われてきました。伊達家もその振興に力を注いだ能楽をはじめとする伝統芸能のほか、特に昭和40年代以降には、合唱団や劇団が数多く発足し、音楽活動や演劇活動が盛んに展開されました。また市民の手によって生まれ、育てられた催しがまちを舞台に展開され、まちに活気と賑わいをもたらしてきました。昭和48（1973）年には、市民オーケストラとして宮城フィルハーモニー管弦楽団（現：仙台フィルハーモニー管弦楽団）が誕生し、５年後にはプロのオーケストラとして活動を開始しました。昭和61（1986）年には、市民の文化創造と豊かな市民生活の実現に寄与することを目的に財団法人仙台市市民文化事業団を設立、また、文化芸術の発表や鑑賞の場として各所に文化施設を整備してきました。

　こうした背景のもと、ほん市では以下のような各種文化芸術振興に係る取組を展開してきました。

かっこ１　伝統芸能・文化財・民俗芸能等に関する取組

　ほん市には、旧石器・縄文時代以降のかず多くの遺跡や文化財が残されているほか、伊達家ゆかりの文化や地域で育まれてきた文化が根付いている等、様々な取組が今もなお行われています。

　具体的には、伊達家もその振興に力を注いだ能楽を中心とした伝統芸能の普及を図る事業を実施し、仙台市能楽振興協会との共催による能公演の開催や、能-ボックスでの子どもを対象とした能の体験講座等を通じ、身近に本物に触れることのできる機会を提供してきました。

　また、ユネスコ無形文化遺産「あきうの田植踊」をはじめとした民俗芸能の上演や、文化財の発掘調査等の成果の展示・公開、学校での出前授業等、ほん市の歴史と文化に市民が身近に親しめることを目指した普及啓発事業を展開しています。

かっこ２　がくと仙台・げきと仙台

　ほん市では、長年にわたり市民による音楽活動が盛んに行われ、音楽をまちづくりの柱の一つとするべく様々な音楽振興事業を実施してきました。プロ・アマ混成の市民オーケストラを発端とする仙台フィルハーモニー管弦楽団を支援するほか、平成２（1990）年にはプロの演奏家（仙台フィル）が指導するジュニアオーケストラとして全国の先駆けとなる「仙台ジュニアオーケストラ」を設立しました。また、平成13（2001）年には仙台開府四百年記念事業としてほん市独自の国際コンクールである「仙台国際音楽コンクール」を創設し、仙台を世界に発信するためのキャッチコピーとして「がくと仙台」を掲げるようになりました。手頃な価格で気軽にクラシック音楽を楽しめる「仙台クラシックフェスティバル」を含めたこれらの取組を、「がくと仙台」を構成する事業として展開しています。

　また、ほん市ではピーク期（平成11（1999）ねんごろ）には80を超える劇団が活動する等、演劇が盛んなまちでもあります。そうした素地のもと、ほん市の演劇振興事業をたばねる名称として平成９（1997）年に掲げた言葉が「げきと仙台」です。現在、「げきと仙台」事業としては、創作者の目線に立った柔軟な運営を行う「せんだい演劇工房てん-ボックス」を拠点に、戯曲の全国公募を行う「せんだい短編戯曲賞」、広く市民に演劇鑑賞機会を提供する「鑑賞型プログラム」、舞台芸術の担い手を育てる「舞台スタッフ・ラボ」等を展開しています。

　現在、「がくと仙台」「げきと仙台」は、市の事業を表す言葉として使われることにとどまらず、市民主体の多様な音楽活動、演劇活動が展開されていることも含め、ほん市の都市個性を表す言葉となっています。

かっこ３　現代アートや映像メディア等同時代の文化芸術に関する事業

　ほん市では、市民ギャラリーや図書館、映像メディアセンター、視聴覚障害者のための情報提供施設の機能を持つ芸術文化施設として、平成13（2001）年にせんだいメディアテークが開館しました。ギャラリーでは、地元の市民団体による展覧会や、全国規模の巡回展等が開催されているほか、スタジオシアターでの映画上映や、オープンスクエアでの展示やシンポジウム等、多彩なプログラムが展開されています。事業運営においては、開館以来、建築空間と現代アートや映像メディアによる記録・表現・交流といった市民の生涯学習を通じた知的文化活動の蓄積により得られた、人材や資料を生かした循環的な事業を構想し、さらに発展的な事業展開に取り組み、メディアを用いた都市文化の創造を目指しています。

　せんだいメディアテークでは、事業を通して多くの個人や団体が関わっており、これらの経験やネットワークが仙台固有の文化の素地となるよう、若い世代の視点や活力を引き出し、また、まちの新たな魅力創出につながる取組を現代アートを通じておこなっています。

かっこ４　郷土ゆかりの文学者・文学作品に関する取組

　ほん市は、日本の近代詩の基礎を築いた詩人・土井晩翠や島崎藤村のほか、小説家の北杜夫、劇作家・小説家の井上ひさし等、数多くの文豪を輩出しています。平成11（1999）年に開館した仙台文学館では、こうした郷土にゆかりのある近代文学に関する作品、文学者の遺品等を収集・保管するとともに、常設展・企画展で広く市民に公開しています。東日本大震災後は、常設展示に震災をテーマにしたコーナーを設ける等、震災と文学をテーマにした資料の紹介を行っています。また、古典から近現代までの文学作品について学びを深める講座等を開催し、文学や言葉に関心を持つ市民に向けた普及活動を行うほか、子どもを対象とした、次世代のことばの感性を育む取組も行っています。

かっこ５　市民主体の文化芸術活動

　ほん市は「市民協働のまち」をうたい、文化芸術の面でも、仙台の秋の風物詩として定着した「じょうぜんじストリートジャズフェスティバル」や、仙台からはじまり、その後全国に広がりを見せた「とっておきの音楽祭」等、市民の手によって生まれ、育てられたイベントがまちを舞台に展開されています。市民主体による多様な文化芸術活動とその担い手はほん市の文化芸術環境を支える大きな力となっています。

　また、市民ボランティアも数多く活躍しています。例えば、仙台国際音楽コンクールでは、ボランティアによる参加者えのホスピタリティーが高く評価され、ホームステイの受け入れボランティアと海外からの参加者との交流がコンクール開催後も長年にわたり続けられる等、ほん市のプレゼンス向上に貢献しています。仙台城あとやむつ国分寺跡では、ボランティアが現地ガイドを行う等、歴史や文化えの理解を深め、より身近に感じてもらううえで重要な役割を果たしています。

かっこ６　まつり・多様な文化コンテンツ

　ほん市には、毎年200万人以上の人出で賑わう「仙台七夕まつり」のほか、仙台すずめ踊りや時代絵巻巡行が行われる「仙台・青葉まつり」等、ほん市の歴史を背景に新たに生み出されたまつりがあり、まちに活気と賑わいをもたらしています。

　また、「ハイキュー!!」や「ブルージャイアント」といった仙台が舞台の一つとなっている漫画・アニメ等、国内外からの集客が期待できる多様な文化コンテンツもあります。

　これらのコンテンツはまちの賑わい創出において、大きな力を発揮しています。

かっこ７　文化芸術による社会包摂に係る取組

　障害の有無に関わらず文化芸術に親しむ機会が開かれるよう、誰もが参加しやすいコンサートや、絵画の公募展、日本語字幕や音声解説付き映画上映、イベント開催時の手話や要約筆記による情報保障等を、多様な主体と協働して実施しています。また、東京ニイゼロニイゼロオリンピック・パラリンピック競技大会を契機として始まった「仙台市文化プログラム（2017～2021年度）」では、創作アトリエといった障害の有無に関係なく参加できる表現の場づくりや、シニア層のかたがたの生きがいや活躍の場の創出につながる演劇ワークショップ等を、公募のうえ採択された団体とほん市との共催により行いました。このほか、現在もNPOをはじめとした多様な主体により、様々な取組が行われています。（23ページ　コラムまる２参照）

　また、震災後には、子どもの心のケアを目的に、学校等へアーティストを派遣するアウトリーチ事業を行ってきました。

かっこ８　震災復興過程における文化芸術活動

　東日本大震災後、ほん市では文化芸術活動が震災復興のいちよくを担ってきました。

　発災から２週間後、仙台フィルハーモニー管弦楽団と市民有志が「音楽の力による復興センター」（現：公益財団法人音楽の力による復興センター・東北）を立ち上げ、被災地での演奏活動を継続的に実施しました。その開催回数は令和４（2022）年３月時点で1,000回を超えています。このほか、市民主体による多様な取組が東日本大震災を契機として生まれています（25ページ　コラムまる３参照）。

　また、せんだいメディアテークでは、「３がつ11にちをわすれないためにセンター（わすれン！）」が発災から約２ヶ月後に開設され、市民・専門家・アーティスト等様々な立場の人が参加する震災アーカイブがこんにちも続き、蓄積された資料は国内外で活用されています。

　平成28（2016）年には、沿岸部の震災メモリアル拠点として「せんだい3.11メモリアル交流館」が、また平成29（2017）年には「震災遺構仙台市立荒浜小学校」が整備されました。両施設は、津波の脅威と備えの大切さのみならず、交流や発信を通じ、かつてそこにあった豊かな地域文化と暮らしのありようを伝えています。

　復興過程で文化芸術が大きな力を発揮したことを受け、経済団体、市民団体において新たな音楽ホールを求める機運が高まりました。また、多様な主体との協働により災害を乗り越えるための知恵やすべを生む災害文化の創造拠点として中心部震災メモリアル拠点の必要性も認識され、現在ほん市では、この２拠点の複合施設の整備検討を進めています。

かっこ９　文化施設の整備

　ほん市では、市民が歴史や文化芸術に触れ、学び、親しむ場として、仙台市青年文化センターや各区文化センター等のホール系施設、仙台市博物館、仙台文学館、せんだいメディアテーク、仙台市歴史民俗資料館等のミュージアム系施設の整備を進め、各施設においてそれぞれの特色を生かした事業を行ってきました。

　市内において、専門性の高い大型ホールがないことのほか、既存施設の高い稼働率を背景とした予約の取りづらさや一部施設の老朽化が課題となっています。こうしたことも踏まえ、ほん市では前述のとおり、新たな音楽ホールと中心部震災メモリアル拠点の複合施設の整備検討を進めており、令和５（2023）年７月に基本構想を策定しました。

　音楽ホールの大ホールは生の音源に対する音響を重視し、多様な舞台芸術公演が可能な2,000席規模のホールとし、これまで仙台で実現できなかった公演や大会の開催が可能となります。さらに、大小様々な発表会、練習・創造プロセスに対応する諸室を備え、事業としても人材育成や文化芸術の力を社会に生かす取組を推進する等、ほん市がこれまで蓄積してきた文化資源や市民の力をより一層発展させる文化芸術の総合拠点を目指します。また、複合施設としては、文化芸術拠点、災害文化拠点それぞれの特性やノウハウを融合させ、ほん市ならではの創造性あふれる施設となることを目指しています。開館は令和13（2031）年度頃であり、文化芸術と災害文化の創造・発信の核となる拠点の誕生により、ほん市の文化芸術環境に大きな変化がもたらされるものと見込まれます。

３　文化芸術面の強み・個性、課題と今後の方向性

　ほん市の今後の方向性を検討するため、文化芸術に関する市民の意識や鑑賞・活動の状況等を統計的に把握する市民意識調査や、文化芸術活動に携わる市民のニーズ把握のためのヒアリング調査やアンケート調査、ほん市の文化芸術を取り巻く現状確認のための全国及びベンチマークとした他市との比較調査を実施しました。

　これらの各種調査結果等を踏まえたほん市の文化芸術面の主な「強み・個性」と「課題」、及びこれらを踏まえた方向性については、以下のとおり整理されます。（調査結果については40ページ　参考資料「各種調査の結果」参照）

■強み・個性

まる１　文化的な土台を有する

・原始・古代に始まる歴史や風土、仙台藩初代藩主伊達政宗公が発展させた文化等、仙台には様々な歴史遺産が受け継がれています。

・「がくと」「げきと」や、現代アートや映像メディアといった同時代の文化芸術に関する事業においてフラッグシップとなってきたせんだいメディアテークの取組、市民主体の活発な活動等、官民双方による文化芸術に関する取組の長年の蓄積があります。

・東日本大震災からの復興の過程において、文化芸術の力を再認識させた多様な文化的な取組の蓄積があります。

まる２　音楽イベントやまつり等、まちづくりの柱となるコンテンツが数多く存在

・「仙台クラシックフェスティバル」「じょうぜんじストリートジャズフェスティバル」といった音楽イベント、「仙台七夕まつり」や「仙台・青葉まつり」といった伝統あるまつり等、市民が文化芸術に身近に接するとともに、交流人口の拡大にもつながる数多くのコンテンツが存在します。

・仙台を舞台とする漫画やアニメ等、新たなコンテンツも生まれています。

まる３　若者を応援する風土がある

・「仙台国際音楽コンクール」「仙台短編文学賞」「せんだいデザインリーグ卒業設計日本一決定戦」「仙台短篇映画祭」等の取組が長く続いていることに見られるように、国内外から豊かな才能を持つ人材を呼び込み、応援する風土があります。

まる４　文化芸術に対する高い市民意識

・市民意識調査において文化芸術を鑑賞することや文化芸術活動を行うことが「非常に大切」「ある程度大切」と回答した割合は、鑑賞や活動を行わない層も含めて高く、文化芸術に対する市民の意識は高い状況にあります。

まる５　都市特性上の比較優位性

・ほん市の人口動態、産業構造、東北における拠点性を踏まえると、比較的大きな市場性を有し、人口規模を上回る集客や人材の集積が期待できます。

<強み・個性を生かした方向性>

・長年、市民協働により培われたほん市の文化事業の一層の推進と、市民の文化芸術活動の活性化に資する取組を進めます。

・ほん市の都市個性ともなる伝統芸能、文化財や民俗芸能、様々な災禍を踏まえた経験等、過去からの多様な蓄積を適切に保存し、その価値えの理解を広め、発展的に未来に継承します。

・ほん市の多様な文化コンテンツを国内外に発信し、都市のブランド力を高め、まちの活力につなげます。

・若い世代による新しい表現を大切にし、国内のみならず世界から豊かな才能を持つ人材を惹きつける取組を進めます。

■課題

まる１　興味関心から実際の鑑賞・活動につなげる方策の充実、アクセスの改善

・鑑賞・活動及び情報の入手に関する市民の多様なニーズを踏まえた取組の強化が求められています。

・子どもたちの文化芸術に親しむ機会の充実を求める声が多く、文化芸術に出会う機会となるアウトリーチや芸術鑑賞会の重要性を認識し、仕組みとして一層の整備を図ることが求められています。

・障害のあるかたの文化芸術に親しむ機会の充実や、障害のあるかたえの文化事業に関する情報の届け方が課題となっています。

まる２　伝統芸能等（保存活動を含む）えの周囲の理解を得る取組・後継者の不足

・伝統芸能等（伝統芸能、文化財、民俗芸能）の保存活動を単なる趣味と理解されてしまう場面がある等、伝統芸能等えの理解が十分に浸透していません。

・伝統芸能等を中心に、実践する人の高齢化と指導者を含む後継者の不足が課題となっています。

・少子化や子どもの多忙さ等により、文化芸術活動を行う子どもが減少傾向にあります。

まる３　文化芸術に携わる主体間の連携不足、コーディネートする人材の不足

・庁内各課及び文化芸術に携わる様々な主体間のネットワークの強化が求められています。

・多様な主体間の連携をコーディネートする人材や機能が不足しています。

・市と文化活動団体との間の一層の情報共有や連携が課題となっています。

まる４　活動する場の質・量の不足と老朽化

・公演場所や練習場所の確保に苦慮しているとの声が多く寄せられています。

・市内の主要文化施設の老朽化が進むとともに、多様な実演芸術に対応した大規模な会場が市内にないことから、全国を巡回する公演の機会損失や大規模な大会が開催できない等、文化施設の質量ともに課題があります

まる５　先進的な文化コンテンツの創出につながる環境が未成熟・発信力の不足

・文化芸術のイベント等を通じて仙台の魅力を発信し、多くの人を呼び込むことえの期待が高くなっています。国内外に強く訴求できる、既存の文化芸術の枠にとらわれない新たな文化コンテンツの創出につながる仕掛けや仕組みづくりが求められています。

・発信力の不足により、文化芸術面での強みが都市のPRに生かしきれていない状況にあります。

<課題を踏まえた方向性>

・多様な主体との連携により、あらゆる市民が文化芸術に身近に親しめる環境をつくります。

・次代の担い手の育成につなげるため、文化芸術の持つ固有の価値えの学びを深め、興味・関心を得られる機会の充実を図ります。

・既存の文化芸術の枠にとらわれない、若者を惹きつける新たな文化コンテンツの発掘・創出の視点に立った取組を進めます。

・「文化芸術の総合拠点」及び「災害文化の創造拠点」となる新たな複合施設の整備検討を進め、ハード・ソフトの両面において、市民が愛着を持ち、市民の誇りとなる施設とすることを目指します。

第３章

計画の全体像

１　基本理念

２　計画の全体像

３　目指す姿と基本施策

４　重点プロジェクト

１　基本理念

　本計画全体に通底するテーマである基本理念を以下のとおり定め、文化芸術振興施策を推進していきます。

多様な個性が輝き、まちの未来を拓く

ひとりひとりがよりよく生きる文化芸術の杜

　文化芸術は、人がよりよく生きる力の源であり、また人と人とが共に生きていくうえで大切なものです。

　「杜のみやこ」の成り立ちにもあるとおり、このまちに暮らす人々が長いねんげつをかけて育てた一本一本の木がやがて豊かな「杜」となるように、ひとりひとりの多様な考え方や感じ方が受け入れられ、つながりが生まれることで、豊かな社会が形成されていきます。文化芸術は、多様な個性が輝くことで発展し、また、人と人をつなぐ架け橋としての役割を通じて、多様性（ダイバーシティー）と包摂（インクルージョン）を備えた社会の実現に大きな力を発揮します。

　ほん市では、これまで市民協働により多彩な文化芸術活動が展開されてきました。また、東日本大震災というみぞうの災害に直面してもなお、文化芸術を心の糧として持ち続けたいと願う市民や、社会との接点を模索し続けたアーティストたちの活動を通じて、改めて、文化芸術がよりよく生きる力の源であると認識してきました。

　仙台の豊かな文化を築き、またその文化を未来へとつなぎ、発展に導く中心となるのは市民です。ほん市は、年齢や障害の有無、国籍等に関わらず、あらゆる市民に文化芸術を享受する機会や、自由に創造する機会がひらかれることを目指します。また、ひとりひとりの生き方を尊重し、多様な担い手が対等に連携し合うことで、様々な創造的な活動を育んでいきます。

　さらに、そこから生まれる創造的な取組の輪を、ここ仙台から世界に広げていくことで、多様な担い手が世界中から集い交流し、より大きく、豊かな「杜」に育っていくものと考えます。

　これらを踏まえ、「多様な個性が輝き、まちの未来を拓く　ひとりひとりがよりよく生きる文化芸術の杜」を基本理念として文化芸術振興施策を展開し、仙台ならではのまちづくりを進めていきます。

２　計画の全体像

基本理念

多様な個性が輝き、まちの未来を拓く　ひとりひとりがよりよく生きる文化芸術の杜

目指す姿

まる１　あらゆる人に参加機会がひらかれ、文化芸術に親しめるまち

まる２　多様な文化芸術活動が展開され、その担い手が育まれるまち

まる３　子どものときから文化芸術との出会いがあり、若者のチャレンジを応援するまち

まる４　歴史と記憶が継承され、未来を描く礎となるまち

まる５　文化芸術によって都市の個性が磨かれ、人を惹きつけ躍動するまち

重点プロジェクト

まる１　文化芸術の担い手を育む協働プロジェクト

まる２　創造性をひらく子ども・若者プロジェクト

まる３　杜のみやこの新たなシンボルとなる文化拠点整備プロジェクト

まる４　文化コンテンツによる賑わい創出プロジェクト

基本施策

目指す姿１関連

まる１　文化芸術に親しめる環境づくり

まる２　文化芸術による社会包摂に係る取組の充実

目指す姿２関連

まる３　市民の文化芸術活動支援

まる４　文化芸術の力を社会に生かす取組の推進

目指す姿３関連

まる５　子どもの文化芸術に親しむ機会の充実

まる６　若い世代の表現活動への支援

目指す姿４関連

まる７　伝統芸能・文化財・民俗芸能等の継承・普及啓発

まる８　アーカイブの推進

目指す姿５関連

まる９　「がくと仙台」「げきと仙台」の推進

まる10　美術・映像を軸とした現代アート事業の推進

まる11　多様なコンテンツを生かした賑わい創出

目指す姿１から５を横断する施策

・これからの文化芸術を支える仕組みの構築

・文化施設環境等の充実

・新たな文化拠点の整備

・効果的な情報発信の推進

３　目指す姿と基本施策

　「基本理念」や、ほん市の「強み・個性」、「課題」を踏まえ、文化芸術の面で「目指す姿」とその実現のための「基本施策」を次のとおり掲げます。

［目指す姿１］あらゆる人に参加機会がひらかれ、文化芸術に親しめるまち

年齢や障害の有無、国籍等に関わらず、あらゆる人に文化芸術活動の参加機会が確保され、文化芸術に親しみ、創造性を育むことを通じて一人ひとりの個性が生かされるまち

心にやすらぎや活力が生まれ、豊かさが感じられるまち

【基本施策】

まる１　文化芸術に親しめる環境づくり

まる２　文化芸術による社会包摂に係る取組の充実

［目指す姿２］多様な文化芸術活動が展開され、その担い手が育まれるまち

先進的な創造の取組から市民による地域に根付いた取組まで、多様な文化芸術活動が活発に展開されるまち

アマチュアもプロフェッショナルも活躍の機会が得られ、多様な担い手が育まれるまち

【基本施策】

まる３　市民の文化芸術活動支援

まる４　文化芸術の力を社会に生かす取組の推進

［目指す姿３］子どものときから文化芸術との出会いがあり、若者のチャレンジを応援するまち

子どものときから文化芸術に親しみ、その楽しさを実感する機会を通じて豊かな感性を育むまち

多様な挑戦を受け入れ、応援する風土が築かれることで、若者から活躍の場として選ばれ、仙台から世界へはばたく人材が生まれるまち

【基本施策】

まる５　子どもの文化芸術に親しむ機会の充実

まる６　若い世代の表現活動えの支援

［目指す姿４］歴史と記憶が継承され、未来を描く礎となるまち

伝統文化や文化財、様々な災禍を踏まえた経験が適切に保存され、またその固有の価値が人の学びや杜のみやこといった都市個性に結び付くこと等を通じて、歴史ある豊かな文化的環境が次の世代に受け継がれるまち

【基本施策】

まる７　伝統芸能、文化財、民俗芸能等の継承・普及啓発

まる８　アーカイブの推進

［目指す姿５］文化芸術によって都市の個性が磨かれ、人を惹きつけ躍動するまち

仙台ならではの歴史や環境を基盤に市民協働により育まれてきた文化的な取組がまちの魅力となり、その魅力を世界に発信することを通じて、国内外から多くの人を惹きつけ、さらなるまちの活力と魅力につながる好循環が生まれるまち

【基本施策】

まる９　「がくと仙台」「げきと仙台」の推進

まる10　美術・映像を軸とした現代アート事業の推進

まる11　多様なコンテンツを生かした賑わい創出

目指す姿１～５を横断する施策

　以下の取組については、目指す姿１～５の全ての実現に資するものとして、横断的に展開する施策に位置づけます。

●これからの文化芸術を支える仕組みの構築

●文化施設環境等の充実

●新たな文化拠点の整備

●効果的な情報発信の推進

４　重点プロジェクト

　「基本理念」のもと、５つの目指す姿の実現に向けて重点的に取り組むプロジェクトを次のとおり掲げます。

まる１　文化芸術の担い手を育む協働プロジェクト

　市民主体により築かれたほん市の豊かな文化的環境を未来へとつなぐため、様々な文化芸術活動を多様な主体との協働により推進し、継続、発展に向けた担い手の育成につなげます。また、これからのほん市の文化芸術環境を支える仕組みについて検討を進めます。

（主な取組）

■地域の社会課題と向き合う文化芸術活動に対する助成　基本施策まる２・まる４

　共生社会の実現に向けた取組等、社会課題と向き合う公益性の高い文化芸術活動を多様な主体との協働により推進し、継続、発展に向けた担い手の育成につなげます。また、本助成で採択された事業の意義を深め、波及効果を高めていくことを目的に、外部の専門人材による伴走支援を行います。

■担い手の育成と活動環境の向上に向けた検討　目指す姿１～５を横断する施策

　アーティストや企画制作者、コーディネーター、舞台技術者等、多様な人材がほん市を拠点に活動を継続できるよう、その育成と活動環境の向上に係る仕組みについて検討します。　　　　　　また、市内を拠点に活動する活動主体同士の情報交換や学びの場を構築するほか、各文化施設等に集約される活動主体からの相談、意見を既存事業の改善、見直しにつなげる等、多様な主体の声を施策に反映する仕組みをつくります。

まる２　創造性をひらく子ども・若者プロジェクト

　未来の担い手である子どもたちの豊かな感性を育むため、子どものときから文化芸術に出会い、親しむ機会の充実を図ります。また、若い世代のアーティストの活動を支援するため、その育成・発表・活躍の機会の創出につながる新たな取組について検討を進めます。

（主な取組）

■学校、保育所等へアーティストを派遣する取組　基本施策まる５

　子どもたちが文化芸術に出会う機会をつくるため、学校・幼稚園・保育所・児童館等へアーティスト（音楽・演劇・大衆芸能・伝統芸能・美術・ダンス・文学等）を派遣する取組を進めます。

■若い世代との協働による新たな取組の検討　基本施策まる６

　大学や地域の人材等と協働し、若い世代のアーティストの発表・活躍機会の創出につながる新たな取組について検討を進めます。

まる３　杜のみやこの新たなシンボルとなる文化拠点整備プロジェクト

　「仙台の文化芸術の総合拠点」となる音楽ホールと「災害文化の創造拠点」となる中心部震災メモリアル拠点の複合整備を進めます。複合施設の強みを生かし、連携・協働事業を実施する等、仙台ならではの創造・発信を行い、仙台と世界をつなげる杜のみやこの新たなシンボルとなることを目指します。

（主な取組）

■複合施設の整備　目指す姿１～５を横断する施策

　「仙台の文化芸術の総合拠点」となる音楽ホールと「災害文化の創造拠点」となる中心部震災メモリアル拠点の複合整備を進めます。

■機運醸成・開館を見据えたソフト事業の実施　目指す姿１～５を横断する施策

　開館までの期間を大切な助走期間と位置づけ、文化芸術の振興と災害文化の創造に寄与する先行事業を実施します。

まる４　文化コンテンツによる賑わい創出プロジェクト

　文化芸術の持つ多様な価値を生かし、仙台はじまりの地とも言える青葉山エリアや仙台の都心（じょうぜんじ通・勾当台周辺、青葉通・一番町周辺、仙台駅周辺、宮城野通周辺）等、多くの人が集い、交流が生まれる魅力的な都市空間の実現に資する取組を推進します。また、アートプロジェクトの展開を通じて仙台のアートの土壌を豊かにするとともに、仙台ゆかりの多様なコンテンツの活用、新たなコンテンツの創出により、世界えの発信力を高め、広くまちの活性化につなげます。

（主な取組）

■各エリアのビジョンの実現に資する取組の推進　基本施策まる11

　「仙台・青葉山エリア文化観光交流ビジョン」や「勾当台・じょうぜんじ通エリアビジョン」の示す将来像の実現に資する取組を推進します。

■漫画・アニメコンテンツの活用　基本施策まる11

　ほん市にゆかりのある漫画やアニメコンテンツを活用し、ほん市えの誘客及び周遊を促進する等、まちの賑わい創出を図ります。

■現代アート等先端的な取組の推進　基本施策まる４・まる11

　「未知のものに向かう」現代アートの特有の力を生かし、まちに驚きと賑わいが創出されるような環境づくりをさんかん部、中心市街地、沿岸部等を視野に入れ取り組みます。

第４章

施策の展開

１　施策と主な取組

[目指す姿１]　あらゆる人に参加機会がひらかれ、文化芸術に親しめるまち

基本施策

まる１　文化芸術に親しめる環境づくり

まる２　文化芸術による社会包摂に係る取組の充実

基本施策まる１　文化芸術に親しめる環境づくり

（基本的な考え方）

　市民が幅広く文化芸術を享受するためには、日常生活の一つとして、身近に文化芸術に触れられる環境が大切です。市内各所に所在する文化施設は、そうした環境をつくる基盤として、人々が文化芸術に触れ、学びや発見の機会を提供する場となるものです。各施設の機能や特色を生かした取組のほか、施設間や分野を越えた連携等により、鑑賞、体験、交流、学びの機会を市民に提供し、文化芸術に親しめる環境づくりを推進します。

主な取組

■文化施設における公演・人材育成・普及啓発事業

　文化芸術の創造発信拠点としての役割を担う仙台市青年文化センターにおいて、市民の文化活動・鑑賞・交流創造の支援という施設の社会的役割を果たすべく、地域ニーズを踏まえた公演、人材育成、普及啓発事業を実施します。

■ミュージアム連携事業

　学芸員等専門職員が持つ知識や手法を集積し、単館では実現困難な多彩なプログラムや情報発信事業を実施することにより、ミュージアムの発信力を高め、多面的な学びの場を創出するとともに、学校や地域活動、観光分野等との連携を進め、地域のニーズに合った複合的かつ総合的なミュージアムの活用を推進します。

■多様な主体との連携による鑑賞機会等の創出

　大学や地域企業等の多様な主体との連携を通じ、幅広い市民に多様な文化芸術の鑑賞機会等を創出する取組を進めます。

■各文化施設の取組の充実

仙台市青年文化センター

文化芸術の創造発信拠点として、仙台国際音楽コンクールをはじめとしたほん市の主要な文化事業の会場機能を担い、劇場法において求められる新たな文化芸術の創造・発信、またそれらを担う人材の育成に積極的に取り組みます。

区文化拠点施設

　市内各区に所在する、仙台市民会館、仙台市戦災復興記念館、仙台市広瀬文化センター、仙台市宮城野区文化センター、仙台市若林区文化センター、仙台市太白区文化センター、仙台市泉文化創造センターにおいて、市民が身近に文化芸術に触れられるよう、活動の場の提供を行う等、市民文化の向上に取り組みます。

せんだい演劇工房てん-ボックス・別館能-ボックス

「げきと仙台」の拠点として、作品の創作から発信までの一連の過程を舞台芸術の創作者の目線に立った柔軟な運営で支え、併せて、市内外の舞台芸術関係者の間に形成されたネットワークを活用し、情報交換機能を発揮します。また別館能-ボックスでは、主に能楽を中心とした伝統芸能の普及啓発事業を実施します。

仙台市博物館

　仙台や東北地方の歴史と文化に関わる文化財を収集、保存するとともに、調査研究を進めて文化財の新たな価値、魅力の発掘に努め、その成果を、展示をはじめ、講座やイベント等の教育普及事業を通して発信します。併せて、日本や世界の歴史と文化を対象とする展覧会も適宜開催し、市民が優れた文化財の鑑賞を通して、歴史と文化を楽しく学ぶ機会を提供します。

仙台市歴史民俗資料館

　歴史・民俗資料の収集保管、調査研究、展示公開、普及啓発事業を行い、併せて、学校教育活動、郷土学習、生涯学習等えの支援を積極的に実施することにより、仙台の歴史や民俗文化えの理解を深め、郷土文化を発展させることに寄与します。

仙台市富沢遺跡保存館（地底の森ミュージアム）

　富沢遺跡で発掘された２万年前（旧石器時代）の森林跡と人間の活動跡を現地で保存・公開し、当時の環境と人類の活動が学習できるテーマミュージアムという特性を生かし、調査研究や関連資料の常設展示、企画展示、野外展示、普及啓発事業等、先史時代への理解を深める事業に積極的に取り組みます。

仙台文学館

　郷土にゆかりのある文学資料を収集・保存・展示し、一般の利用に供して、郷土の文学的風土と伝統を継承します。また、郷土の文学者等の活動や作品の発掘・再評価を行うとともに、企画展や様々な講座を実施、文学活動の育成と振興を図ることにより、郷土の芸術文化の創造と発展に寄与します。

せんだいメディアテーク

　様々なメディアを通して自由に情報のやりとりを行う生涯学習の場であるとともに、美術や映像文化等を中心とする文化芸術活動の拠点として、ほん市のシンボルでもあるじょうぜんじ通に面した立地と、世界に誇る建築デザインという施設の特性を最大限に発揮しながら、美術や映像文化の創造または普及に資する取組を行います。

仙台市縄文の森広場

　山田上ノ台遺跡等をもとに縄文時代のムラと周辺の環境を復元し、自然と共生していた先人の暮らしを楽しみながら体験できる学習施設として、調査研究や関連資料の常設展示、テーマ展示、野外展示、普及啓発事業を積極的に行うことにより、先史時代への理解を深めることに寄与します。

せんだい3.11メモリアル交流館

　企画展の開催や各種ワークショップ等の開催を通じ、震災の記憶と経験を伝承するとともに、津波被災地域の歴史を含めた被災前の暮らしや営み、魅力等の地域文化の発信に寄与します。

仙台城見聞館

　仙台じょうほんまるあとにつくられたガイダンス施設として、仙台藩の儀式や政務が執り行われた仙台じょうほんまる大広間に関連した展示や大広間の復元模型、仙台城あとの見どころを紹介したパネルや映像等を通じて、仙台城あとの歴史やその魅力、楽しみ方等を分かりやすく伝えることで、内外から訪れるかたに対して、史跡・仙台城あとえの理解や学びの進展に寄与します。

史跡むつ国分寺・にじ跡ガイダンス施設

　史跡むつ国分寺跡につくられたガイダンス施設として、国分寺や国分にじの創建にはじまる歴史や変遷のあゆみ等について、パネルや発掘調査の出土品の展示等を通じて分かりやすく紹介するとともに、史跡を通して地域の歴史や文化に親しめるよう、学びや体験の場を提供します。

基本施策まる２　文化芸術による社会包摂に係る取組の充実

（基本的な考え方）

　文化芸術に親しみ、生涯にわたりこころの豊かさや充実を得られる機会は、全ての人にひらかれているものです。障害のあるかたも参加しやすいイベントや年齢にとらわれない活動の場の創出といった取組えの市民のニーズは高い状況にあります。今後も市民の多様なニーズを的確に把握し、市内で活動を展開する多様な主体と連携しながら、年齢、障害の有無、国籍等に関わらず、あらゆる人が文化芸術を享受し、新たな創造に寄与できる環境づくりを推進します。

主な取組

○多様な主体との連携による取組

■鑑賞の機会の拡大に資する取組

　障害のあるかたやその付き添いのかたを対象に、仙台フィルハーモニー管弦楽団による本格的なオーケストラの鑑賞の機会を提供する「もりのみやこのふれあいコンサート」や、障害のあるかたもないかたも一緒に楽しめる「リラックス・コンサート」等、あらゆる人に鑑賞機会をひらく取組を進めます。

■創造・発表の機会の拡大に資する取組　（新たに実施する取組です。）

　障害のあるかたによる芸術作品の国際公募を行う、アート　トゥ　ユー　障害者芸術世界展　イン　センダイを実施するほか、ウエルフェアアート展の実施に伴いアート作品等の巡回展示を行う等、障害のあるかたの創造・発表の機会の充実につながる取組を進めます。

■障害者の芸術活動に関する理解の促進

　障害のあるかたと文化芸術活動に関わる個人や団体、活動を紹介する場づくりにより、広く理解の促進につなげます。

■国際文化交流の推進

　国際姉妹・友好都市／協定締結都市等との交流を通じた市民の国際文化に触れる機会の創出や、市民による自発的な活動えの支援等により、国際交流と多文化共生の取組を推進します。

○市民活動等えの助成

■各種団体えの助成

　民間団体による、障害者の文化芸術・社会参加の促進に寄与する行事等に対し補助金を交付し、文化芸術活動を通じた市民協働による障害理解・差別解消の普及啓発を進めます。

■地域の社会課題と向き合う文化芸術活動に対する助成　（新たに実施する取組です。）（重点プロジェクトまる１　文化芸術の担い手を育む協働プロジェクトにおいて行う取組です。）

　障害のあるかたによる文化芸術活動の促進や、年齢や国籍、経済的な状況等に関わらずあらゆる人の文化芸術の鑑賞、体験等の機会の充実を図る取組等、社会課題と向き合う公益性の高い文化芸術活動を多様な主体との協働により推進し、継続、発展に向けた担い手の育成につなげます。また、本助成で採択された事業の意義を深め、波及効果を高めていくことを目的に、外部の専門人材による伴走支援を行います。

コラムまる２　文化芸術による社会包摂に係る取組

　ほん市において令和３（2021）年から実施している、文化芸術の力を生かして地域の課題と向き合う活動えの助成事業においては、福祉や多文化共生、まちづくり、教育といった様々な分野と文化芸術が連携した意欲的な取組が生まれ、文化芸術の持つ力や新しい価値を再認識することにつながっています。

　なかでも、ほん市を拠点に活動するNPOをはじめとした多様な主体による、文化芸術による社会包摂に係る取組が、近年広がりを見せています。例えば、言葉や物語を理解できなくても感覚を使って楽しむことができる多感覚演劇の上演を行う舞台芸術祭のプロデュース、オープンアトリエの運営や障害のあるかたの創造・鑑賞活動等を促進する中間支援の取組、難病や重度障害のかたが入院する病院等にアートプログラムを届けたり、障害のあるかたもないかたも通えるアートスタジオを開いたりする取組等があります。

　こうした多様な主体とほん市とが協働で実施した本計画策定に係るワークショップにおいては、このような取組のさらなる広がりと情報発信を求める声が参加者より寄せられたところです。今後も、こうした取組により多くの担い手が参画することが、ほん市の豊かな文化環境をつくることにつながるものと考えられます。

[目指す姿２]　多様な文化芸術活動が展開され、その担い手が育まれるまち

基本施策

まる３　市民の文化芸術活動支援

まる４　文化芸術の力を社会に生かす取組の推進

基本施策まる３　市民の文化芸術活動支援

（基本的な考え方）

　ほん市では多くの市民が文化芸術の様々な分野で自主的な活動を展開し、まちに活気と賑わいをもたらしてきました。市内各所で行われる地域に根ざした多種多様で厚みのある文化芸術活動がほん市の文化芸術面での特徴の一つですが、少子高齢化や新型コロナウイルス感染症の影響により、継続が難しくなっている活動もあります。市民による創造活動が将来にわたり活発に行われ、さらなる広がりにつながるよう、その活動を様々な側面から支援します。

主な取組

■公演・展示活動えの助成

　市民による公演・展示・上映会等の活動に対して助成を行い、市内における文化芸術活動の活性化や、市民が文化芸術に親しめる環境の醸成を図ります。

■文化芸術活動に係る広報支援・協力

　市内で開催される文化芸術事業について、名義後援を通じてその周知を支援するとともに、公益財団法人仙台市市民文化事業団との連携による、ウェブサイトえの掲載等を通じた広報支援、企画えの助言、相談対応等の協力を行います。

■文化芸術に係る功績の顕彰

　文化芸術の分野において全国的に権威のある大会等で優秀な成績を収めた個人及び団体に対して、その功績をたたえ顕彰を行い、ほん市の文化芸術の担い手のさらなる活躍を後押しします。

基本施策まる４　文化芸術の力を社会に生かす取組の推進

（基本的な考え方）

　文化芸術は豊かな創造力や感性を育む力、多様な文化や価値を受け入れる力、新たな需要や付加価値を生み出す力等、様々な力を持っています。ほん市には、東日本大震災からの復興過程において文化芸術の力を再認識させた多様な文化的取組の蓄積があります。そうした蓄積やノウハウを土台として、文化芸術の力を生かした様々な社会課題と向き合う取組を多様な主体との協働により推進します。

主な取組

○多様な主体との連携による取組

■現代アート等先端的な取組の推進（重点プロジェクトまる４　文化コンテンツによる賑わい創出プロジェクトにおいて行う取組です。）

　「未知のものに向かう」現代アートの力を通し、交わりと学びを地域に展開する「せんだい・アート・ノード・プロジェクト」について、せんだいメディアテークが主体となり取り組みます。地域が抱える課題やニーズに対し、現代アートでアプローチし、地域の資源・課題・人材をつなぐことで、まちの魅力と人々の活力を引き出すという、先進的かつ発展的な文化芸術活動の展開と発信を行います。

■音楽の力による心の復興支援

　震災直後から被災者の心の復興を支えてきた音楽を、復興公営住宅等での被災者交流支援に活用するほか、被災者からの要望に応じて市内各所での復興コンサートを実施する等、公益財団法人音楽の力による復興センター・東北とともに、音楽の力による震災復興支援事業を実施します。

■災害文化の創造・発信

　多様な活動を展開する市民団体・企業・研究機関等との協働により、災害を乗り越える知恵やすべである「災害文化」を創造し、社会に定着させていく普及啓発事業を実施します。

○市民活動等えの助成

■地域の社会課題と向き合う文化芸術活動に対する助成（再掲）

（新たに実施する取組です。）（重点プロジェクトまる１　文化芸術の担い手を育む協働プロジェクトにおいて行う取組です。）

　社会課題と向き合う公益性の高い文化芸術活動を多様な主体との協働により推進し、継続、発展に向けた担い手の育成につなげます。また、本助成で採択された事業の意義を深め、波及効果を高めていくことを目的に、外部の専門人材による伴走支援を行います。

コラムまる３　市民主体の文化芸術活動（震災復興過程の取組）

　東日本大震災からの復興の過程において、ほん市では市民主体による文化芸術に係る多様な取組が生まれました。発災から２週間後に仙台フィルハーモニー管弦楽団と市民有志により発足した「音楽の力による復興センター」の先述の活動のほか、宮城県吹奏楽連盟による「楽器バンク」の設立、地元音楽家ら有志による「被災地へピアノを届ける会」の設立等、市民が主体となり、被災者に楽器を贈る運動も展開されました。また、平成23（2011）年４月に発足した、舞台人による復興支援のためのネットワーク「アルクト」は、震災後の２年間で数百回に及ぶアウトリーチ活動を手がける等、中間支援組織としての役割を担いました。（現在は同団体を継承した「ARCT」（アルクト）が活動しています。）津波被災地のかつてのくらしを知る活動を行う「3.11オモイデアーカイブ」では、東日本大震災と地域の歴史を後世に残すため、資料の収集・保存・利活用をツアー等を交えながら行っています。

　これらの取組は、地域に密着して長年にわたり続けられ、いわゆる「被災地の慰問」にとどまらず、心のケア、コミュニティの再構築、震災の記憶の継承等の多重的な役割を果たしました。

[目指す姿３]　子どものときから文化芸術との出会いがあり、若者のチャレンジを応援するまち

基本施策

まる５　子どもの文化芸術に親しむ機会の充実

まる６　若い世代の表現活動えの支援

基本施策まる５　子どもの文化芸術に親しむ機会の充実

（基本的な考え方）

　子どもの頃から多くの文化芸術に触れることは、豊かな感性を育むとともに、生涯にわたる生きがいを生み出し、また文化芸術の将来の担い手を育てることにもつながります。次世代を担う子どもたちが社会的・経済的な環境に関わらず等しく文化芸術に触れる機会を得られるよう、学校や文化芸術団体等と連携し、様々な場面で文化芸術に出会う機会の充実を図ります。

主な取組

○舞台芸術等の鑑賞・体験機会の創出

■学校・保育所等へアーティストを派遣する取組　（既に実施していて、より充実を図る取組です。）（重点プロジェクトまる２　創造性をひらく子ども・若者プロジェクトにおいて行う取組です。）

　子どもたちが文化芸術に出会う機会をつくるため、学校・幼稚園・保育所・児童館等へアーティスト（音楽・演劇・大衆芸能・伝統芸能・美術・ダンス・文学等）を派遣する取組を進めます。

■仙台ジュニアオーケストラ

　音楽芸術の創造者や地域の文化リーダーとなるべき人材を育成し、ほん市の音楽文化の一層の振興及び発展を図るため、仙台ジュニアオーケストラの運営を行います。練習指導は発足当初より継続して仙台フィルハーモニー管弦楽団と連携し、実施します。

■音楽や舞台芸術の鑑賞会の実施

　子どもたちの豊かな情操を育むとともに、文化芸術えの関心を高めるため、仙台フィルハーモニー管弦楽団によるオーケストラ演奏の鑑賞会をはじめ、ミュージカルの鑑賞会や、ゼロ歳から入場できるコンサート等、優れた音楽や舞台芸術の鑑賞の機会を提供します。

○歴史・文化財・伝統文化の体験・学びの機会の創出

■体験プログラムの創出

　地域の歴史や文化、自然等を身近に感じることができる体験プログラムについて、地域ごとの特徴や魅力をより体感できるよう磨き上げを行うとともに、イベントの開催やウェブを活用した利用促進を行います。

■伝統文化の継承

　伝統文化親子教室や民俗芸能体験会等の、次世代を担う子どもたちをはじめ、市民が日本の伝統文化や民俗芸能に広く親しむきっかけをつくる事業に取り組み、豊かな人間性の涵養を図るとともに、民俗芸能の保存団体等が地域や種類の垣根を越えて交流・連携しながら保存・継承を目指していける場づくりを進めます。

■文化財等に関する出前授業

　ほん市職員が市内小・中学校へ出向き、文化財や地域の歴史等の授業を行います。本物の文化財に直接触れる体験に加え、発掘現場とのライブ中継や仙台城あとVR教材の活用等、ギガスクール環境を有効活用した体験的な学びを充実させ、児童生徒が様々な角度から文化財に親しめる環境づくりを進めます。

■仙台市博物館の資料の活用

　仙台市博物館と市内の小・中・高校が連携し、校外学習やグループ学習を通じて児童・生徒が博物館を訪れ、本物の資料を鑑賞する機会の促進を図ります。また、資料や映像を用いた仙台藩に関する歴史学習や、伊達家の家紋やつちにんぎょう、びょうぶえ等の製作体験を行う「学習プログラム」を博物館内外で展開する等、体験や体感を通じ、歴史・文化に対する子どもたちの興味関心を醸成する取組を進めます。

基本施策まる６　若い世代の表現活動えの支援

（基本的な考え方）

　ほん市には、文化的な取組を通じて、豊かな才能を持つ若い世代の人材を国内外から呼び込み、応援する風土が築かれてきました。ほん市が才能豊かな若者の活躍の場として選ばれ、世界へとはばたくステージとなることは、市民の誇りとなるばかりでなく、ほん市の文化芸術環境全体の底上げにもつながります。若い世代のアーティストの自由な発想による新しい表現を大切にし、活躍機会の創出につながる取組を推進します。

主な取組

■仙台国際音楽コンクール

　ヴァイオリンとピアノの２部門で構成され、才能ある若い音楽家の世界えの登竜門となるコンクールを開催します。コンクール開催中の市民ボランティア等と連携した出場者えのサポートのほか、コンクール開催後の副賞コンサート等を通じ、仙台をキャリアの出発点として活躍する若手演奏家の活動を支援します。

■せんだい短編戯曲賞

　全国から作品を公募し、大賞作品を含む最終候補作品を戯曲集として発行します。取組を通じて、優れた短編戯曲を集約して全国に紹介し、上演機会の創出と次代の演劇を担う人材の発掘・育成を目指します。

■教育機関等と連携した若い世代えの活動支援

　複数の大学の学生らによる仙台建築都市学生会議と大学教員やせんだいメディアテーク等により「せんだいデザインリーグ卒業設計日本一決定戦」を共同で実施するほか、「仙台短篇映画祭」では、高校生や若手映画監督が作品を発表する機会づくりを実行委員会とともに支えます。

■若い世代との協働による新たな取組の検討　（新たに実施する取みです。）（重点プロジェクトまる２　創造性をひらく子ども・若者プロジェクトにおいて行う取組です。）

　大学や地域の人材等と協働し、若い世代のアーティストの発表・活躍機会の創出につながる新たな取組について検討を進めます。

コラムまる４　仙台から世界へはばたいたアーティストたち

　ほん市では、これまでも若い世代の表現活動を支援する様々な取組を実施してきました。「若い音楽家のためのチャイコフスキー国際コンクール（1995年）」のほん市開催の成果を継承し平成13（2001）年に創設した仙台国際音楽コンクールでは、多くの出場者が国際的に権威のあるコンクールで優勝・入賞を果たす等キャリアを積み重ね、数々の国際舞台で活躍を続けています。また、平成15（2003）年から続く「せんだいデザインリーグ卒業設計日本一決定戦」で入賞した学生からは、国内外で活躍中の建築家が、「仙台短篇映画祭」からは、日本を代表する映画監督が生まれています。

[目指す姿４]　歴史と記憶が継承され、未来を描く礎となるまち

基本施策

まる７　伝統芸能、文化財、民俗芸能等の継承・普及啓発

まる８　アーカイブの推進

基本施策まる７　伝統芸能、文化財、民俗芸能等の継承・普及啓発

（基本的な考え方）

　ほん市では、日本遺産「政宗が育んだ“伊達”な文化」の構成文化財や能楽を中心とする伝統芸能をはじめ、数多くの文化財や民俗芸能等が今に受け継がれています。しかしながら、急速に進む少子高齢化によって、担い手や支えての不足が進んでおり、将来にわたる人材の確保が大きな課題となっています。ほん市の都市個性ともなるこれらの歴史的財産について、次代の担い手を見据え、その固有の価値えの学びを深める機会の充実を図るとともに、それらが併せ持つ、観光資源や地域再生の原動力ともなり得る多様な価値も生かしながら、発展的に継承します。

主な取組

○伝統文化の継承・普及啓発

■能楽普及に向けた取組

　広く市民に能楽の魅力を伝えるため、能と狂言を気軽に鑑賞できる本格的な公演「仙臺能」を実施するほか、稽古用舞台を備えた「能-ボックス」を活用し、能楽をはじめ伝統的な日本文化えの親しみと理解を深めるため、子どもを対象とした企画や、広く一般の市民を対象とした講座等を実施します。また、能楽を中心とした伝統芸能の活動環境の充実に向けた検討を進めます。

■伝統文化の継承（再掲）

　伝統文化親子教室や民俗芸能体験会等の、次世代を担う子どもたちをはじめ、市民が日本の伝統文化や民俗芸能に広く親しむきっかけをつくる事業に取り組み、豊かな人間性の涵養を図るとともに、民俗芸能の保存団体等が地域や種類の垣根を越えて交流・連携しながら保存・継承を目指していける場づくりを進めます。

○郷土の偉人や歴史を伝える取組

■先人の功績を顕彰する取組

　仙台出身の詩人・土井晩翠や洋画家・杉村じゅんをはじめとした、ほん市の文化芸術分野における先人の功績を顕彰する取組を行います。

■国内姉妹都市交流

　文化芸術分野の先人の交流や歴史的関係、伝統行事を基に提携した姉妹都市との交流を通じ、先人の功績や歴史の継承等に取り組むとともに、都市間の相互理解を深めます。

■「仙台歴史ミュージアムネットワーク」の取組

　市内の歴史系ミュージアムの連携組織である「仙台歴史ミュージアムネットワーク」（略称：れきネット）において、仙台の伝統的な門松の復元展示等、ほん市の歴史・文化に親しめる取組を進めます。

○文化財の継承・普及啓発

■文化財の保存・活用に係る各種計画の策定

　文化財をまちづくりに生かしつつ、地域全体でその継承に取り組むことで、地域における文化財の計画的な保存・活用を推進していくため、市内文化財に係る保存・活用の各種計画を策定します。

■文化財の保護管理・普及啓発

　市内にある有形文化財、無形文化財、民俗文化財、記念物といった文化財の次世代えの継承を図るため、文化財保護審議会の運営や文化財に対する調査・維持管理・修繕費等補助事業等により、保護・管理を行います。また、文化財展等のイベントの開催や文化財サポーター養成講座、市内小・中学校での出前授業等により普及啓発を行います。

○遺跡の発掘調査・整備

■市内遺跡の発掘調査

　市内約780カ所の遺跡（埋蔵文化財包蔵地）に関連する公共事業や民間の土地区画整理事業、ビル建設等に伴う発掘調査及び出土品整理を行うとともに、調査報告書の刊行を行います。

■仙台城あとの整備

　国指定の史跡である「仙台城あと」について、歴史と趣を感じる城郭らしい景観と、来訪者が学びを楽しむことのできる環境を実現するため、城郭全体の景観を整備することで、歴史的な背景を踏まえた城郭内外からの眺望を実現します。また、発掘調査成果に基づく登城路整備を行うとともに、大手門の復元を目指し、関連する基礎調査と周辺部を含む範囲での発掘調査を実施します。

■国指定史跡の整備

　国指定の史跡である「むつ国分寺・国分にじあと」や「郡山遺跡」について、土地の公有化を進めるとともに、実態解明に至っていない場所の計画的・継続的な発掘調査や整備を進めます。

基本施策まる８　アーカイブの推進

（基本的な考え方）

　ほん市がこれまで歩んできた歴史や文化等に関する資料は、ともすれば時間の経過とともに散逸してしまうものであり、そうしたものが失われてしまうことのないよう、アーカイブ（収集・保存・編纂）の機能が重要となります。地域の歴史や伝統、多様な文化芸術に関する資料収集・調査・研究とその成果の活用により、市民の暮らしに息づく文化の伝承を図り、市民の主体的な学びの支援とまちの魅力向上に生かします。

主な取組

■各ミュージアム施設におけるアーカイブの推進

　仙台市博物館や仙台文学館等のミュージアム施設において、文化財や歴史、郷土ゆかりの文学者に関する資料等を収集・保管し、継続的な調査研究に取り組むとともに、展示や講座をはじめとした多様な手法によりその成果を活用します。また、所蔵資料等のデジタルアーカイブの作成と公開を進めます。

■地域文化アーカイブ事業　（既に実施していて、より充実を図る取組です。）

　地域の歴史や多様な文化芸術及び美術・映像に関わる活動による成果を「コミュニティ・アーカイブ」（市民協働によるアーカイブ）と総称し、デジタルメディアを活用し、収集・制作から保存・資料化、利活用の機会づくりまでをせんだいメディアテークにおいて、取り組みます。また、それらの文化活動としてのアーカイブに取り組む市民や実践者の支援や活動の普及にも努めます。

■３がつ１１にちをわすれないためにセンター

　東日本大震災という大きな出来事に向き合い、ともに考えるために、平成23（2011）年５月３日、せんだいメディアテークに開設されたプラットフォームである同センターにおいて、市民、専門家、アーティスト等様々な立場の人々が参加者となり、ともに震災にまつわる事柄を記録し、発信しています。参加者個々の視点からとらえ、記録された映像や写真、音声、文章等を整理・保存し、様々な形で活用します。

■災害記録共有アーカイブソラ　（新たに実施する取組です。）

　個人・団体・企業等がそれぞれ所有する災害に関連する記録資料（写真、映像、ドキュメント等）の共有を図るアーカイブサイトの構築と運用を通じ、地域における防災力向上の取組等、災害文化の創造と定着に寄与する活動を推進します。

■資料レスキュー活動

仙台市博物館において、東日本大震災等の災害で被災した文化財を救出し、保全する「資料レスキュー活動」を行っています。この取組の成果や、歴史上の大きな災害を、パネル展示やパンフレットで紹介し、防災えの意識を促すとともに、文化財を地域の共有財産として継承・活用することの重要性を発信します。

[目指す姿５]　文化芸術によって都市の個性が磨かれ、人を惹きつけ躍動するまち

基本施策

まる９　「がくと仙台」「げきと仙台」の推進

まる10　美術・映像を軸とした現代アート事業の推進

まる11　多様なコンテンツを生かした賑わい創出

基本施策まる９　「がくと仙台」「げきと仙台」の推進

（基本的な考え方）

　ほん市では市民による音楽活動や演劇が盛んなまちであることから、「がくと仙台」「げきと仙台」を掲げ、その推進を図ってきました。現在整備を進めている複合施設は、実演芸術を中心としたほん市の文化芸術の総合拠点となるものであり、がくと・げきとをさらに発展させる大きなきっかけとなるものです。こうした動きを見据えながら、引き続き、これらの都市個性を磨き上げるための様々な事業を展開し、これからのほん市のシビックプライドにつなげます。

主な取組

○がくと仙台の推進

■仙台クラシックフェスティバル

　低額な入場料、多彩なプログラム、短い公演時間をコンセプトに、誰もが気軽に名曲を楽しめるイベントとして開催します。開催を通じて、クラシック音楽の新しい楽しみ方を提案し、聴衆拡大を図り、都市の魅力や活力の創出につなげます。

■仙台国際音楽コンクール（再掲）

　ヴァイオリンとピアノの２部門で構成し、才能ある若い音楽家の世界えの登竜門となるコンクールを開催します。公正で信頼性の高い運営、高い評価を得てきた市民ボランティアのホスピタリティーのもと、コンクール開催を通じてほん市の国際的なプレゼンスを高めるとともに、関連事業等を通じ、文化資産を幅広く市民へ還元します。

■仙台フィルハーモニー管弦楽団の支援

　仙台国際音楽コンクールのホストオーケストラ、仙台ジュニアオーケストラの指導、仙台クラシックフェスティバルえの出演等、「がくと仙台」の中心的な役割を担う仙台フィルハーモニー管弦楽団について、楽団の運営経費の一部を補助することで、安定的な活動を支援し、ほん市の音楽文化のさらなる振興を図ります。

■仙台ジュニアオーケストラ（再掲）

　音楽芸術の創造者や地域の文化リーダーとなるべき人材を育成し、ほん市の音楽文化の一層の振興及び発展を図るため、仙台ジュニアオーケストラの運営を行います。練習指導は発足当初より継続して仙台フィルハーモニー管弦楽団と連携し、実施します。

○げきと仙台の推進

■せんだい短編戯曲賞（再掲）

　全国から作品を公募し、大賞作品を含む最終候補作品を戯曲集として発行します。取組を通じて、優れた短編戯曲を集約して全国に紹介し、上演機会の創出と次代の演劇を担う人材の発掘・育成を目指します。

■市民の演劇鑑賞機会の創出

　市民えの演劇の鑑賞、参加機会の提供や舞台芸術の可能性を拡げることを目的に、げきと仙台の拠点であるせんだい演劇工房てん-ボックスにおける、地元の劇団の創作公演や県外の劇団との共催公演のほか、劇場以外の場所を舞台としたアウトリーチ公演等を実施します。

■舞台芸術の担い手育成事業

　中高生をはじめとする若者や、これまで演劇と関わりのなかったかたが演劇に親しめる機会の創出を目指す、演劇の身体表現等を学ぶ講座や、舞台監督・音響・照明等の舞台技術を学ぶ事業「舞台スタッフ・ラボ」を通して、舞台芸術の担い手の育成につなげます。

基本施策まる10　美術・映像を軸とした現代アート事業の推進

（基本的な考え方）

　ほん市では、市民ギャラリーや図書館、映像メディアセンター等の機能を併せ持つせんだいメディアテークにおいて、各種展覧会やアートによる多彩なプログラムを展開しています。今後も、メディアを用いた都市文化の創造を目指し、東北圏における美術・映像・デザイン・メディア文化の拠点としての、先進的・啓発的な事業を行います。

主な取組

■自主企画による展覧会や上映会の開催と出版

　国内外の先進的なアート表現の紹介や、東北圏及び仙台市域から全国へと発信する展覧会の開催、国内外の映画や地域文化にまつわる貴重な記録映像の上映会の開催等、仙台市域における現代アートや映像文化に関する諸活動を牽引するとともに、広く市民に鑑賞の機会を提供します。また、全国に流通する出版物を発行します。併せて、アーティストによる視点や仕事と、地域の歴史、資源、人材をつなぐアートプロジェクトを展開し、地域人材との協働を介して広くアートが受容される環境づくりに取り組みます。

■諸団体との共催による企画

　趣旨を共有できる諸団体との連携・協働を通じ、より広い分野の事業に取り組み、せんだいメディアテークの機能の拡張に努めます。併せて、事業を通して企画者の経験値を高め、ともに仙台のこんにち的な文化を全国へと発信します。

基本施策まる11　多様なコンテンツを生かした賑わい創出

（基本的な考え方）

　ほん市には、豊かな文化的土壌を背景とした多様な文化コンテンツがあります。これらは、ほん市のアイデンティティーとしてだけではなく、交流人口の拡大にも資するものとして、大きな期待が寄せられています。ほん市固有のこれらの文化コンテンツを国内外に発信するとともに、新たな魅力ある文化コンテンツの発掘や創出を図り、まちの活力向上につなげます。

主な取組

○ほん市に受け継がれる文化コンテンツの活用

■まつり等の開催支援

　交流人口のさらなる拡大と地域経済の活性化を図るため、まつり等の大型観光イベントの開催を支援し、観光客の誘致を進めます。

■彫刻のあるまちづくり

　まちの緑の空間に彫刻を配置する「彫刻のあるまちづくり事業」のもとで設置された彫刻と周辺の緑を案内する「杜のみやこの彫刻めぐり」を通して、身近な緑や彫刻に親しむ機会をつくります。

■建築資源の活用

　伊東とよお氏設計のせんだいメディアテーク、宮城県内に現存する最古の洋風木造建築物で、県指定文化財である仙台市歴史民俗資料館等の建築物を地域の資源として保存・活用します。

○新たな文化コンテンツの創出・活用

■現代アート等先端的な取組の推進（再掲）　（重点プロジェクトまる４　文化コンテンツによる賑わい創出プロジェクトにおいて行う取組です。）

　「未知のものに向かう」現代アート特有の力を生かし、まちに驚きと賑わいが創出されるような状況づくりをさんかん部、中心市街地、沿岸部等を視野に入れ取り組みます。

■漫画・アニメコンテンツの活用　（重点プロジェクトまる４　文化コンテンツによる賑わい創出プロジェクトにおいて行う取組です。）

　ほん市にゆかりのある漫画やアニメコンテンツを活用し、ほん市えの誘客及び周遊を促進する等、まちの賑わい創出を図ります。

■映像作品の誘致・支援

　せんだい・宮城フィルムコミッションにおける映画、テレビドラマ等の映像作品の県内での撮影の誘致や支援を通じて仙台・宮城の魅力を発信します。

■体験プログラムの創出（再掲）

　地域の歴史や文化、自然等を身近に感じることができる体験プログラムについて、地域ごとの特徴や魅力をより体感できるよう磨き上げを行うとともに、イベントの開催やウェブを活用した利用促進を行います。

■各エリアのビジョンの実現に資する取組の推進　（重点プロジェクトまる４　文化コンテンツによる賑わい創出プロジェクトにおいて行う取組です。）

　「仙台・青葉山エリア文化観光交流ビジョン」や「勾当台・じょうぜんじ通エリアビジョン」の示す将来像の実現に資する取組を推進します。

目指す姿１～５を横断する施策

（基本的な考え方）

　以下の取組については、目指す姿１～５の全ての実現に資するものとして、横断的に展開する施策に位置づけます。

主な取組

○これからの文化芸術を支える仕組みの構築

■担い手の育成と活動環境の向上に向けた検討　（新たに実施する取組です。）（重点プロジェクトまる１　文化芸術の担い手を育む協働プロジェクトにおいて行う取組です。）

　アーティストや企画制作者、コーディネーター、舞台技術者等、多様な人材がほん市を拠点に活動を継続できるよう、その育成と活動環境の向上に係る仕組みについて検討します。また、市内を拠点に活動する活動主体同士の情報交換や学びの場を構築するほか、各文化施設等に集約される活動主体からの相談、意見を既存事業の改善、見直しにつなげる等、多様な主体の声を施策に反映する仕組みをつくります。

○文化施設環境等の充実

■活動の場の充実

　「仙台市公共施設総合マネジメントプラン」に基づき文化施設の計画的な修繕を進め、活動や発表の場を持続的に提供できるよう、既存の文化施設環境の維持管理に努めます。また、文化施設をはじめ、公園や道路等の公共空間の利活用を通じて、文化芸術に係る取組をまち全体に波及させ、市民が日常的に文化芸術に親しめる環境づくりにつなげるほか、市民ニーズを踏まえた将来にわたる施設環境の維持発展のための検討を続けます。

■文化施設のバリアフリー化の推進

　障害のあるかた、高齢のかた、乳幼児連れのかた等、日常生活や社会生活上、行動に制約があるかたも使いやすい施設とするために、「仙台市ひとにやさしいまちづくり条例」に基づき、既存施設については改修の機会等を捉え、新規施設については整備基準に則った整備によりバリアフリー化を進めます。

■あらゆる人が参加しやすい環境づくり

　情報保障に配慮し、手話通訳、要約筆記、対面朗読、点字や拡大文字を使用した資料の提供等を実施します。また、文化施設職員等を対象に合理的配慮に関する研修機会を設けることを通じ、サポートが必要なかたもほん市主催事業等へ参加しやすい環境づくりを進めます。

○新たな文化拠点の整備

■（仮称）国際センター駅北地区複合施設の整備　（重点プロジェクトまる３　杜のみやこの新たなシンボルとなる文化拠点整備プロジェクトにおいて行う取組です。）

　「仙台の文化芸術の総合拠点」となる音楽ホールと「災害文化の創造拠点」となる中心部震災メモリアル拠点の複合整備を進めます。

■機運醸成・開館を見据えたソフト事業の実施　（新たに実施する取組です。）（重点プロジェクトまる３　杜のみやこの新たなシンボルとなる文化拠点整備プロジェクトにおいて行う取組です。）

　開館までの期間を大切な助走期間と位置づけ、文化芸術の振興と災害文化の創造に寄与する先行事業を実施します。

○効果的な情報発信の推進

■効果的な広報展開

　市民等が文化芸術に触れる機会や参加の機会を得られるよう、文化芸術に係る情報を目的や対象の世代等に合わせ、効果的に発信します。また、情報が広く共有されるよう、SNS等の活用により市民等による主体的な情報の発信・展開を促します。

■文化情報えのアクセス向上に向けた検討

　様々なメディアや主体と連携しながら、文化情報の一元化に向けた検討等を通じ、市民等の文化情報の入手に係る利便性の向上を図ります。

第５章

計画の推進

１　推進体制

２　進捗管理

３　推進にあたっての指標

１　推進体制

　庁内関係各課等と連携し、計画の進捗管理、情報共有及び課題えの対応についての協議・検討を行う推進会議を設置します。

　外郭団体や関係機関等との連携を強化し、市民や文化芸術団体、アーティストとの協働により施策の推進を図ります。

具体的な計画の推進体制を説明します。

計画の推進は、主に

「市民、文化芸術団体、アーティスト」

「外郭団体（公益財団法人仙台市市民文化事業団　等）」

「ほん市」

「関係機関等（教育機関、民間事業者、文化芸術分野における専門家、県・他市町村）」

のよんしゃで行います。

よんしゃそれぞれの役割と関係性を説明します。

「市民、文化芸術団体、アーティスト」は、「外郭団体」及び「ほん市」と協働しながら、そして「関係機関等」と連携しながら

・文化芸術活動の展開

を行います。

「外郭団体」は、政策実現のためのパートナーとして「ほん市」と連携しながら、そして「市民、文化芸術団体、アーティスト」と協働しながら、

・知見やネットワークの活用

・アーティストや文化芸術団体、市民等の支援や協働

を行います。

「ほん市」は、「外郭団体」や「関係機関等」と連携しながら、そして、「市民、文化芸術団体、アーティスト」と協働しながら、

・文化芸術振興施策の総合的・計画的推進

・文化施設の運営等の活動環境整備

・関係団体等との協働・連携を行います。

「関係機関等」は、「ほん市」や「市民、文化芸術団体、アーティスト」と連携しながら

・専門的な知見、ノウハウの提供、施策の効果的な推進

を行います。

また、「外郭団体」及び「ほん市」は、「市民、文化芸術団体、アーティスト」を支援していくとともに、「関係機関等」と「市民、文化芸術団体、アーティスト」の連携支援を行っていきます。

２　進捗管理

　施策に位置づける各取みの実施状況を庁内推進会議において毎年度把握・点検することにより、計画の進捗管理を行います。また、市民や文化芸術関係者等の視点を入れた評価・点検を実施します。これらの評価内容については、次年度の取組や次期計画策定時の検証に生かします。

３　推進にあたっての指標

　以下を指標とし、本計画を推進していきます。また、このほか経年の動向を把握するために必要な統計情報を把握するとともに、文化芸術の特性を踏まえ、定性的な側面も捉えながら計画の進捗状況を確認します。

【仙台市文化芸術に関する意識調査】

３つの指標を設けます。１つめの指標　文化芸術環境に対する満足度

現状

令和４（2022）年度　43.3%

目標

令和10（2028）年度　50.0%

２つめの指標　文化芸術を鑑賞する市民の割合（過去１年間に文化芸術を鑑賞した市民の割合）現状

令和４（2022）年度　79.1%目標

令和10（2028）年度　85.0%

３つめの指標　文化芸術活動を行う市民の割合（過去１年間に文化芸術活動を行った市民の割合）現状

令和４（2022）年度　20.0%目標

令和10（2028）年度　25.0%

参考資料

１　仙台市文化芸術推進基本計画検討懇話会

２　各種調査の結果

３　市民参画の取組

１　 仙台市文化芸術推進基本計画検討懇話会

　本計画の策定にあたっては、「仙台市文化芸術推進基本計画検討懇話会」を設置し、有識者等の意見を伺いました。

（開催経過）

第１回懇話会

日程

令和５年３月28日

内容

ほん市の文化芸術振興の取組及び文化芸術を取り巻く状況について

第２回懇話会

日程

令和５年７月５日

内容

計画の方向性について

第３回懇話会

日程

令和５年９月８日

内容

計画のこっし案について

第４回懇話会

日程

令和５年11月８日

内容

計画の中間案について

第５回懇話会

日程

令和６年２月６日

内容

計画の最終案について

（懇話会委員）

NPO法人せんだい・みやぎNPOセンター　常務理事兼事務局長（あおきゆかり）

東北大学大学院工学研究科　教授（いがらしたろう）

政策研究大学院大学　名誉教授（かきうちえみこ）　※懇話会会長

東北歴史博物館　前館長（かさはらのぶお）

エー　アイ　アール　ラボ　アーツ・プランナー＆リサーチャー（かんのさちこ）

アーツカウンシル東京　プログラムオフィサー（さとうりせい）

NPO法人エイブル・アート・ジャパン　代表理事（しばさきゆみこ）

HAL PLANNING　代表（しょうじはるか）

河北新報社　事業局　局長（やまだあつし）

宮城県芸術協会　理事長（よしだとしひろ）　※懇話会副会長

２　各種調査の結果

かっこ１　仙台市文化芸術に関する意識調査

文化芸術に関する市民の意識や鑑賞・活動の状況等を統計的に把握し、施策の検討に生かすことを目的として、「仙台市文化芸術に関する意識調査」を実施しました。

（実施概要）

調査期間

令和４年12月21日～令和５年１月20日調査対象3,000人

仙台市在住で令和４年11月１日現在15歳以上の男女を各区の人口比に応じて無作為に抽出調査方法郵送による調査表（無記名）配布・郵送またはウェブ（みやぎ電子申請サービス）による回収回収結果30.8%（3,000人分の924人）

（結果抜粋）※割合は少数第２位を四捨五入して表示していることから、合計が100％にならない場合がある。

まる１　鑑賞の状況

　この１年間に何らかの文化芸術の鑑賞（直接鑑賞）を行った人の割合は79.1%であり、今後の鑑賞意欲を問う質問に対しては、７割弱が「もっと積極的に鑑賞したい」と回答する等、幅広い分野で高い鑑賞意欲が伺えます。また鑑賞のために望ましいと思うことについては、以下のとおり、「手頃な料金で楽しめること」「身近な場所で楽しめること」「質の高い、一流の内容のものが楽しめること」の順に回答率が高くなっています。市民の多様なニーズを踏まえた鑑賞環境の整備により、実際の鑑賞行動につなげられる可能性があると考えられます。

質問項目　過去１年間の鑑賞の状況（単位：パーセント）

「鑑賞した」と回答した人の割合　79.1％

「鑑賞しなかった」と回答した人の割合　19.0％

「分からない」と回答した人、及び無回答の人の割合　1.8％

質問項目　今後の鑑賞意欲（単位：パーセント）

「機会と時間があれば、もっと積極的に鑑賞をしたい」と回答した人の割合　68.5％

「現状程度の関わり方でよい」と回答した人の割合　30.3％

無回答の人の割合　1.2％

質問項目　鑑賞のために望ましいと思うこと（単位：パーセント）※上位５位までの回答

「手頃な料金で楽しめること」と回答した人の割合　53.9％

「身近な場所で楽しめること」と回答した人の割合　36.4％

「質の高い、一流の内容のものが楽しめること」と回答した人の割合　30.1％

「鑑賞のためのホール等の施設が充実していること」と回答した人の割合　22.2％

「チケットが入手しやすいこと」と回答した人の割合　21.4％

まる２　文化芸術活動の状況

　この１年間に何らかの文化芸術活動を行った人の割合は20.0%であり、今後の活動意欲を問う質問に対しては、４割弱が「もっと積極的に活動したい」と回答しています。また活動のために望ましいと思うこととしては、「活動をする場の整備・充実」「一緒に活動する仲間やグループの形成・充実」「手頃な費用であること」の順に回答率が高くなっています。市民の多様なニーズを踏まえた活動環境の整備により、文化芸術活動の実践につなげられる可能性があると考えられます。

質問項目　過去１年間の活動の状況（単位：パーセント）

「活動した」と回答した人の割合　20.0％

「活動しなかった」と回答した人の割合　76.6％

「分からない」と回答した人、及び無回答の人の割合　3.4％

質問項目　今後の活動意欲（単位：パーセント）

「機会と時間があれば、もっと積極的に活動したい」と回答した人の割合　38.2％

「現状程度の関わり方でよい」と回答した人の割合　55.0％

無回答の人の割合　6.8％

質問項目　活動のために望ましいと思うこと（単位：パーセント）※上位５位までの回答

「活動をする場の整備・充実」と回答した人の割合　30.3％

「一緒に活動する仲間やグループの形成・充実」と回答した人の割合　27.5％

「手頃な費用であること」と回答した人の割合　26.9％

「活動するための情報が入手しやすいこと」と回答した人の割合」　25.4％

「都合が良い曜日・時間帯に活動が行われること」と回答した人の割合　23.8%

まる３　情報の入手経路

　文化芸術に関する情報の入手経路について、全体集計では「新聞、テレビ、ラジオ」の回答割合が最も高くなりました。一方、年代別でみると、39歳以下では「SNS」の回答割合が最も高くなっています。年代別の現状を踏まえた情報の発信が必要と考えられます。

質問項目　文化芸術に関する情報をどこで得ていますか（単位：パーセント）※上位５位までの回答

「新聞、テレビ、ラジオ」と回答した人の割合　55.2％

「主催者、アーティストの公式ホームページ」と回答した人の割合　40.9％

「ツイッター）、フェイスブック、インスタグラムなどのSNS」と回答した人の割合　34.3％

「ポスター、チラシ」と回答した人の割合　30.7％

「友人・知人」と回答した人の割合　29.2％

まる４　文化芸術えの意識

　文化芸術を鑑賞することや文化芸術活動を行うことが「非常に大切」「ある程度大切」と回答した割合は８割を超えます。なお、鑑賞や活動を行っていない層でも、高い割合で「非常に大切」「ある程度大切」と回答しており、文化芸術えの意識の高さはほん市の文化芸術面での強みの一つと考えられます。

質問項目　文化芸術を鑑賞することや自ら文化芸術活動を行うことは大切だと思いますか（単位：パーセント）

「非常に大切だと思う」と回答した人の割合　33.3％

「ある程度大切だと思う」と回答した人の割合　50.4％

「どちらとも言えない」と回答した人の割合　11.5％

「あまり大切だとは思わない」と回答した人の割合　1.6％

「全く大切だとは思わない」と回答した人の割合　1.0％

無回答の人の割合　2.2%

まる５　文化的な環境の満足度・文化芸術面で優れていること

　ほん市の文化的な環境に満足している人は４割強、一方で満足していないと回答した人も約３割に上ります。ほん市の文化芸術面での長所については「全国に誇れるイベント・フェスティバルがある」の回答率が高い一方で、具体的なイメージを持てない市民も多い状況にあります。

質問項目　仙台市の文化的な環境に満足していますか（単位：パーセント）

「満足している」と回答した人の割合　5.0％

「どちらかといえば満足している」と回答した人の割合　38.3％

「どちらかといえば満足していない」と回答した人の割合　20.5％

「満足していない」と回答した人の割合10.0％

「分からない」と回答した人の割合　23.5％

無回答の人の割合　2.8％

質問項目　仙台市が文化芸術の面で優れている（充実している）と思う点はどこですか（単位：パーセント）※上位５位までの回答

「全国に誇れるイベント・フェスティバルがある」と回答した人の割合　46.8％

「特にない・分からない」と回答した人の割合　26.9％

「まちの景観や公共施設のデザインが美しい」と回答した人の割合　23.2％

「文化施設や博物館など、鑑賞や活動のための施設が充実している」と回答した人の割合　16.0％

「『がくと』『げきと』の都市ブランドが確立し、仙台の都市個性の一つとなっている」と回答した人の割合　15.8％

まる６　今後ちからをいれていくべきこと

　全体集計では、「質の高い作品・著名なアーティストの作品を鑑賞できる機会を増やす」を筆頭に、以下の結果となっています。仙台市の文化的な環境えの満足度において、「不満」と回答した層では、第２位に「文化施設等の充実」が挙げられています。また、年代別の特徴をみると、30代では「子どもたちの文化芸術に親しむ機会の充実を図る」の回答率が、「質の高い作品等の鑑賞機会の増」と並びトップとなっています。市民の多様な声をこれからの施策に反映させていく必要があります。

質問項目　仙台市が文化芸術の面で今後どのようなことにちからを入れていくべきだと思いますか（単位：パーセント）※上位５位までの回答

「質の高い作品・著名なアーティストの作品を鑑賞できる機会を増やす」と回答した人の割合　44.6％

「文化芸術のイベントなどを通して仙台の魅力を発信し、多くの人を仙台に呼び込む」と回答した人の割合　42.7％

「子どもたちの文化芸術に親しむ機会の充実を図る」と回答した人の割合　33.8％

「文化施設や博物館など、鑑賞や活動のための施設の充実を図る」と回答した人の割合　32.5％

「年齢、障がいの有無などに関わらず全ての人が文化芸術に親しめる機会の充実を図る」と回答した人の割合　28.8％

市の文化的な環境への満足度「不満」と回答した層が今後ちからをいれるべきと回答した項目（単位：パーセント）※上位３位までの回答

不満層が望むこと

「質の高い作品・著名なアーティストの作品を鑑賞できる機会を増やす」と回答した人の割合　53.7％

「文化施設や博物館など、鑑賞や活動のための施設の充実を図る」と回答した人の割合　47.7％

「文化芸術のイベントなどを通して仙台の魅力を発信し、多くの人を仙台に呼び込む」と回答した人の割合　43.8％

かっこ２　仙台市障害者等保健福祉基礎調査

　市内在住の障害者の日常生活の状況等を把握するアンケート調査において、「社会参加について」の項目で文化芸術に関する設問を設けました。

　そのうち、「学校以外で学ぶ機会としてどのようなものがあるとよいと思うか」の設問に対して「芸術・美術・音楽等にふれあう機会」と回答した割合が、障害の特性に関わらず上位３位以内となり、高いニーズが伺える結果となりました。

※市内在住の障害者の日常生活の状況等を把握するアンケート調査は、令和４年10月～12月、次期「仙台市障害者保健福祉計画」、「仙台市障害福祉計画（第７期）」、「仙台市障害児福祉計画（第３期）」の策定にあたり実施したものです。

かっこ３　文化芸術活動団体等からのご意見

　文化芸術活動に携わる市民のニーズを把握し、具体の施策の検討に生かすことを目的として、市内を中心に活動する文化芸術活動団体等を対象としたヒアリング調査やアンケート調査を実施しました。

（ヒアリング調査実施概要）

調査期間令和４年10月～令和５年７月調査対象・「がくと仙台」「げきと仙台」関連の文化団体及び個人

・伝統文化・文化財関連の文化団体

・文化芸術による社会包摂に取り組む団体

・現代アート・建築関連の文化団体及び個人

・震災復興過程における文化芸術活動を展開する団体

ヒアリング団体数：20団体、個人：22人

（アンケート調査実施概要）

調査期間令和５年７月～８月調査対象仙台市を主な活動の場として文化芸術活動を行っている団体、事業者、個人（ほん市の「公演・展示活動助成事業」の直近の採択団体及び個人　ほか）調査方法郵送・メール等により対象者へ送付、ウェブフォーム・メール・郵送により回答回収結果配布数：192、回収数：70

[いただいた主なご意見]

■ほん市の特性に関すること

・仙台藩ゆかりの歴史的な土台がある。（伝統文化・文化財関連関係者より）

■子どもや障害者に関すること

・子どもを対象としたアウトリーチや芸術鑑賞会はとても大切な機会。その仕組みづくりが、文化行政の役割として求められる。（文化芸術による社会包摂に取り組む団体より）

・文化事業について障害のある人たちの元に情報が行き渡っていない。参加ができるものと思っておらず、無関心に陥っているのではないか。（文化芸術による社会包摂に取り組む団体より）

■伝統芸能等に関すること

・伝統芸能等えの理解が十分に浸透していない。（伝統文化・文化財関連関係者より）

・実践者の高齢化、指導者を含む後継者の不足が進んでいる。（伝統文化・文化財関連関係者より）

■他分野との連携に関すること

・文化芸術の分野と教育や福祉、医療等のあらゆる社会の分野をつなげていくことを考える必要がある。（演劇関係者より）

・社会課題の解決には分野を越えた協働が不可欠であり、文化芸術と地域社会を掛け合わせた事業展開のために、協働をコーディネートする人材が必要。（文化芸術による社会包摂に取り組む団体より）

■ネットワークや相談窓口に関すること

・アーティストや文化芸術団体同士のネットワークの醸成が必要ではないか。（文化芸術による社会包摂に取り組む団体より）

・文化芸術に関する相談ができる、ワンストップの窓口があると良い。（文化芸術による社会包摂に取り組む団体より）

■若者支援に関すること

・若いプレイヤーが仙台の外に出て研鑽を積んだ後、戻る場がない。彼らが仙台に残っても有意義な活動、学びを得られる環境が必要である。（音楽関係者より）

■文化芸術面でのPRに関すること

・文化芸術面のPRに積極的な都市もあるが、仙台は目に見えるPRが少ない。（音楽関係者より）

■活動の場に関すること

・練習場所の確保に苦労している。（音楽関係者ほか、様々なジャンルの活動団体等より）

・宮城県には大きな会場がなく全国大会の誘致に手を挙げることができない。（音楽関係者より）

■文化事業の質に関すること

・「本物」「課題意識を持たせるようなもの」「刺さってくるようなもの」が少ない。（現代アート関係者より）

かっこ４　 全国及び他市との比較を通じた基礎調査

　全国及びベンチマークとした他市との比較を通じ、ほん市の文化芸術を取り巻く現状を確認しました。

※ベンチマークとした他市

日本の各地方における行政や経済の拠点としてほん市と並び称される札幌市・広島市・福岡市と、ほん市と同様に平成７（1995）年に大震災の被害を受けている神戸市、ほん市と同様に音楽を市の文化芸術振興施策の中心としている川崎市を選定。

まる１　文化芸術活動の活動率

　ベンチマークとした他市との比較調査において、過去１年間の文化芸術の創作、出演、習い事等の活動をした人の割合（活動率）は平均を上回る結果となりました。

※　かっこ１　仙台市文化芸術に関する意識調査とは調査対象や調査手法が異なるため、かっこ１　まる２に記載した「活動を行った人の割合」とは結果に違いが生じています。

過去1年の文化芸術の活動率（単位：パーセント）

６市平均　12.1％、仙台市　13.0％

まる２　文化芸術えの興味関心と実際の鑑賞行動との相関

　ベンチマークとした他市との比較調査において、市内の主要文化施設（スタジアムやコンベンション施設等を除く1,000席以上の劇場・ホールと美術館）の訪問率の高さや地元オーケストラの認知が進んでいること等から、市民の文化芸術に関する興味関心は、比較的高い状態にあると考えられます。一方で、認知度を踏まえると地元オーケストラの鑑賞率がそれほど高くない等、認知や興味関心を持つ段階から実際の鑑賞行動等に結び付いていない可能性があります。市民の文化芸術えのアクセスを改善するための工夫が求められます。

市内の主要施設の訪問実績（単位：パーセント）

６市平均　43.4％、仙台市　52.9％

地元オーケストラの鑑賞経験（単位：パーセント）

「年数回定期的に鑑賞しに行っている」と回答した人の割合　６市平均　1.3％、仙台市　1.6％

「定期的にではないが、何回も鑑賞に行っている」と回答した人の割合　６市平均　4.7％、仙台市　4.3％

「以前鑑賞にいったことはある」と回答した人の割合　６市平均　16.7％、仙台市　18.7％

「鑑賞しにいったことはない」と回答した人の割合　６市平均　49.1％、仙台市　56.7％

「覚えていない」、「わからない」と回答した人の割合　６市平均　4.3％、仙台市　3.9％

「そもそもその楽団の名前を知らない」と回答した人の割合　６市平均　23.9％、仙台市　14.8％

まる３　ほん市の人口動態等及び公演の動員数

　ほん市の昼夜間人口比率は100以上であり、周辺地域における中心性を持っています。また、ほん市の産業は商業・サービス業を中心とした第３次産業の比率が高くなっています。趣味・嗜好が多様である文化芸術に係る活動は、大きな後背地人口がないと発展しにくい傾向にあります。通勤・通学圏を広く抱えているほん市では、人口規模を上回る集客力が期待でき、文化芸術の興行や展示等のイベントが実施しやすい環境にあると考えられます。また、文化芸術活動は、多様な専門サービス業の支えの上に成り立つものであり、その発展には第３次産業の集積が欠かせません。この点からも、仙台市は文化芸術活動が行いやすい環境にあると考えられます。

　音楽・舞台芸術の公演回数や動員数の都道府県別データを見ると、平成31／令和がん（2019）年において、宮城県は全都道府県中、音楽公演回数で８位、舞台芸術公演回数で10位に位置しています。公演の多くは仙台市内で開催されており、比較的大きな市場があると言えます。

昼夜間人口比率・産業別就業者人口比率（単位：パーセント）

項目：昼夜人口

全国　126,146,099人、仙台市　1,154,586人

項目：昼夜間人口比　全国　100％、仙台市105.3％

項目：産業別就業者人口比

全国　一次産業3.2％　二次産業23.4％　三次産業73.4％

仙台市　一次産業0.8％　二次産業15.9％　三次産業83.4％

※出所　将来推計人口のみ国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口（平成30（2018）年推計）」、その他は令和２（2020）年国勢調査

音楽公演県別順位（2019年）

公演回数（単位：回）

全国合計　61,068

東京都　22,811、大阪府　7,097、愛知県　5,304、神奈川県　2,746、福岡県　2,524、北海道　2,206、兵庫県　1,844、宮城県　1,660、京都府　1,330、広島県　1,120、埼玉県　1,019、千葉県　いっせん7、静岡県　709、岡山県　654、新潟県　641

動員数（単位：にん）

全国合計　54,973,000

東京都　14,881,000、大阪府　8,457,000、愛知県　4,390,000、埼玉県　4,348,000、神奈川県　4,194,000、福岡県　3,154,000、千葉県　2,343,000、北海道　2,196,000、兵庫県　1,314,000、宮城県　1,174,000、広島県　837,000、新潟県　614,000、静岡県　597,000、京都府　575,000、茨城県　450,000

舞台芸術公演県別順位（2019年）

公演回数（単位：回）

全国合計　74,806

東京都　48,142、大阪府　9,486、京都府　2,566、愛知県　2,106、福岡県　1,856、兵庫県　1,729、神奈川県　1,270、千葉県　1,231、北海道　1,113、宮城県　759、埼玉県　671、沖縄県　425、愛媛県　324、広島県　310、秋田県　304

動員数（単位：にん）

全国合計　27,857,000

東京都　13,739,000、大阪府　4,336,000、兵庫県　1,650,000、福岡県　1,255,000、愛知県　1,099,000、神奈川県　953,000、京都府　795,000、埼玉県　581,000、北海道　523,000、千葉県　424,000、宮城県　325,000、広島県　237,000、静岡県　134,000、新潟県　117,000、長野県　101,000

※出所　「ライブ・エンタテイメント市場規模の調査」ぴあ株式会社・ぴあ総研、2020年

注：いずれも上位15都道府県のみ。動員数とは公演回数×会場キャパシティーである

３　市民参画の取組

　計画策定に向けて、以下のとおり市民参画の取組を行いました。

かっこ１　ワークショップ

（実施概要）

日時

令和５年８月11日（金曜日・祝日）13時30分から15時30分

会場

せんだいメディアテーク　１階　オープンスクエア

タイトル

みんなで話そう！これからのアート

子どもも、障害のある人もない人も、みんながアートを楽しめるまちにするために

実施概要

文化芸術による社会包摂をめざす取組を行っている市内外のゲストによる話題提供とトークセッションを開催した。会場を「対話のば」と「あそびのば」で構成。「対話のば」はワークショップ形式でゲストによる話題提供を受けて、感想・質問・考えなどテーブルごとに意見交換し、その後、会場全体でディスカッションを行った。「あそびのば」は、主に子どもが遊べるスペースとして、パフォーミングアーツのあそびばと、ビジュアルアートのあそびばを設けた。

参加者数

「対話のば」「あそびのば」合計　120人

協力

NPO法人アートワークショップすんぷちょ

NPO法人エイブル・アート・ジャパン

認定NPO法人STスポット横浜

NPO法人ワンダーアート

公益財団法人仙台市市民文化事業団

（主なご意見・感想）

・保育園や幼稚園等の未就学児を対象とした施設等、学校以外の場にも芸術家を派遣し、子どもたちに文化芸術に触れられる環境をつくってもらいたい。

・子どもの原体験から文化資本がつくられるというお話に、共感した。

・法律や条例ができても、現場まで情報保障等の準備がされていないと当事者は困る。本当の意味でのバリアフリーとはなんなのかを皆さんに考えてほしい。

・「周りに迷惑をかけるから」という理由で鑑賞を諦める人が多くいるといった状況をオープンにしていかないと、障害者は障害者向けの場所にしか行けないと思う。ワークショップのタイトルに「みんなで」とあるように、障害のある人ない人を分けるのではなく一緒にやることが本筋なのではないか。

・見えない障害えの配慮、そういった人たちえのサポートも考えてほしい。

・情報が必要としている人に届いていない実態がある。情報を受け取りたい人と届けたい人をどのようにつなぐのかが課題。

・アートがテーマではあったが、文化芸術が様々な分野（教育・福祉など）につながっていて、アートをきっかけとして他の部分の問題解決につながるように思えた。

かっこ２　シンポジウム

（実施概要）

日時

令和５年11月26日（日曜日）14時から16時30分

会場

せんだいメディアテーク　１階　オープンスクエア

タイトル

シンポジウム「文化コンテンツが創り出すまちの賑わい」

登壇者

近畿大学　総合社会学部／情報学研究所　准教授（おかもとたけし）氏

株式会社集英社　週刊少年ジャンプ副編集長（ほんだひろゆき）氏

合同会社白A　ディレクター（ひしぬまゆうじ）氏

実施概要

オープニングアクト

・パフォーマンス集団白A

アトラクション型演舞ショー「伊達ロマネスク」（抜粋）

行政説明

・（仮称）仙台市文化芸術推進基本計画の策定と市民意見募集について

基調講演

・「メディア・コンテンツで人が動く、文化観光のいま・これから

アニメ、マンガ、ゲーム、アート、Vチューバー等コンテンツが創る“つながり”」

近畿大学（おかもとたけし）氏

・「つながる！マンガと現実世界」

株式会社集英社（ほんだひろゆき）氏

パネルディスカッション

基調講演の登壇者２名、白Aのディレクター（ひしぬまゆうじ）氏

参加者数

95人

（主なご意見・感想）

・なんでもコンテンツになり得るというのはとても大事な発想だと思った。コンテンツを掘り起こすだけでなく、創り出すという発想を持つことで、より多様な資源を生かせると感じた。

・マンガやアニメ等自分にとって身近なコンテンツが結果的にまちの賑わいや活性化につながるという話は興味深かった。自分も仙台のために何かできないか、考えるきっかけになった。

・文化コンテンツがまちの活性化にもたらす影響は、とても大きいものだと改めて感じた。仙台市には、これからもより沢山の文化コンテンツを発掘・発信して、楽しく魅力ある街にしてほしい。

・コンテンツと地域のつながりによる地域の発展の可能性をすごく感じた。

・インプット、アウトプットの内容が今後、計画を考えるときに大事な要素と思った。コンテンツを生み出していく人のインプットを増やせる補助もあるとよいのかもしれない。

・おさんかたそれぞれの切り口、視座の高さ、パネルディスカッションの融合はとても勉強になった。文化コンテンツを創作するために、しなくては、と肩を張らず、エンタメを楽しむことから大切にしていきたいと思った。

・仙台市も駅前の社会実験等のように、市民が参加する形で文化的な観光資源の開発に力を入れていただきたい。

・仙台市（行政）が主体となり、文化コンテンツとのコラボを積極的に進めてほしい。仙台を舞台とした作品や、仙台出身の作者は沢山いる。

発行

令和６年３月

編集

仙台市文化観光局文化スポーツ部文化振興課

郵便番号

きゅうはちゼロのはちろくなないち

住所

仙台市青葉区国ぶん町三丁目７番１号

電話番号

ゼロにーにー　にーいちよん　ろくいちさんなな

ファクス

ゼロにーにー　にーいちさん　さんにーにーご

Eメールアドレス

sim004120アットマーク　シーアイティーワイどっと　エスイーエヌディーエーアイどっと　jp

仙台市教育委員会生涯学習部生涯学習課

郵便番号

きゅうはちゼロのゼロゼロイチイチ

住所

仙台市青葉区上杉一丁目５番12号

電話番号

ゼロにーにー　にーいちよん　はちはちはちろく

ファクス

ゼロにーにー　にーろくはち　よんはちにーにー

Eメールアドレス

ケーワイオー019310アットマーク　シーアイティーワイどっと　エスイーエヌディーエーアイどっと　jp